

# 有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 2019年4月1日  
(第40期) 至 2020年3月31日

株式会社 **クイック**

大阪市北区小松原町2番4号

(E05232)

## 目次

表紙	頁
第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	7
5. 従業員の状況	8
第2 事業の状況	9
1. 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等	9
2. 事業等のリスク	12
3. 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	16
4. 経営上の重要な契約等	23
5. 研究開発活動	23
第3 設備の状況	24
1. 設備投資等の概要	24
2. 主要な設備の状況	24
3. 設備の新設、除却等の計画	25
第4 提出会社の状況	26
1. 株式等の状況	26
(1) 株式の総数等	26
(2) 新株予約権等の状況	26
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	26
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	26
(5) 所有者別状況	26
(6) 大株主の状況	27
(7) 議決権の状況	27
2. 自己株式の取得等の状況	28
3. 配当政策	28
4. コーポレート・ガバナンスの状況等	29
第5 経理の状況	44
1. 連結財務諸表等	45
(1) 連結財務諸表	45
(2) その他	73
2. 財務諸表等	74
(1) 財務諸表	74
(2) 主な資産及び負債の内容	84
(3) その他	84
第6 提出会社の株式事務の概要	85
第7 提出会社の参考情報	86
1. 提出会社の親会社等の情報	86
2. その他の参考情報	86
第二部 提出会社の保証会社等の情報	87

[監査報告書]

## 【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年6月26日
【事業年度】	第40期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）
【会社名】	株式会社クイック
【英訳名】	QUICK CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長 和 納 勉
【本店の所在の場所】	大阪市北区小松原町2番4号
【電話番号】	06（6366）0919（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長兼経理部長 平田 安彦
【最寄りの連絡場所】	大阪市北区小松原町2番4号
【電話番号】	06（6366）0919（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長兼経理部長 平田 安彦
【縦覧に供する場所】	株式会社クイック 東京本社 （東京都港区赤坂二丁目11番7号） 株式会社クイック 名古屋支店 （名古屋市中区栄二丁目1番1号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

##### (1)連結経営指標等

回次	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	12,498,855	14,578,829	16,775,078	19,173,142	21,035,714
経常利益 (千円)	1,737,131	2,073,770	2,300,551	2,818,428	3,009,953
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,170,524	1,391,104	1,627,292	1,966,284	2,074,137
包括利益 (千円)	1,156,593	1,575,831	1,802,518	2,025,939	1,952,526
純資産額 (千円)	4,708,853	5,796,164	6,977,090	8,358,806	9,464,000
総資産額 (千円)	7,331,371	9,300,675	10,451,165	12,592,299	13,558,509
1株当たり純資産額 (円)	250.64	308.51	370.72	443.19	502.19
1株当たり当期純利益 (円)	62.30	74.04	86.62	104.40	110.05
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	64.2	62.3	66.6	66.4	69.8
自己資本利益率 (%)	27.0	26.5	25.5	25.7	23.3
株価収益率 (倍)	14.2	15.9	22.0	17.2	8.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	954,724	2,000,540	1,432,567	2,354,325	2,463,704
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△221,242	△255,758	△490,650	△332,179	△392,496
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	△452,267	△504,243	△634,210	△746,245	△990,254
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	3,400,787	4,639,428	5,014,883	6,334,521	7,415,291
従業員数 (人)	643	711	844	1,003	1,175
(外、平均臨時雇用者数)	(82)	(99)	(124)	(133)	(143)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第39期の期首から適用しており、第38期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
売上高 (千円)	8,362,024	9,833,659	10,989,682	12,599,732	13,760,196
経常利益 (千円)	1,623,840	1,800,395	2,077,981	2,253,237	2,680,944
当期純利益 (千円)	1,123,493	1,255,805	1,549,929	1,634,247	1,837,867
資本金 (千円)	351,317	351,317	351,317	351,317	351,317
発行済株式総数 (株)	19,098,576	19,098,576	19,098,576	19,098,576	19,098,576
純資産額 (千円)	4,339,494	5,295,797	6,391,793	7,524,082	8,389,068
総資産額 (千円)	6,324,299	7,931,962	8,951,256	10,424,655	11,074,791
1株当たり純資産額 (円)	230.98	281.88	340.22	399.00	444.87
1株当たり配当額 (円)	25.00	30.00	35.00	42.00	45.00
(うち1株当たり中間配当額)	(13.00)	(14.00)	(17.00)	(19.00)	(22.00)
1株当たり当期純利益 (円)	59.80	66.84	82.50	86.77	97.46
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	68.6	66.8	71.4	72.2	75.7
自己資本利益率 (%)	28.2	26.1	26.5	23.5	23.1
株価収益率 (倍)	14.7	17.7	23.1	20.7	10.1
配当性向 (%)	41.8	44.9	42.4	48.4	46.2
従業員数 (人)	444	508	575	691	783
(外、平均臨時雇用者数)	(50)	(58)	(59)	(73)	(79)
株主総利回り (%)	110.1	149.9	241.9	233.7	140.9
(比較指標：配当込みTOPIX)	(89.2)	(102.3)	(118.5)	(112.5)	(101.8)
最高株価 (円)	1,178	1,261	2,132	2,193	1,816
最低株価 (円)	602	708	1,092	1,112	822

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第39期の期首から適用しており、第38期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## 2 【沿革】

年月	事項
1980年9月	関西における株式会社リクルート（現・株式会社リクルートホールディングス）の代理店第一号として求人広告代理業（現・リクルーティング事業）を営むとともに、採用教育に関するコンサルタント業務を目的として、大阪市淀川区に株式会社クイックプランニングを設立。
1983年4月	東海地区の市場開拓を目的として名古屋市中区に名古屋支店を設置。
1986年11月	東京地区の市場開拓を目的として東京都新宿区に東京支店を設置。
1987年6月	本店を大阪市北区に移転。
1990年9月	商号を「株式会社クイック」に変更。
1992年4月	保険代理業務及び教育業務を目的として、大阪市北区に株式会社クイックサービスを設立。
1996年12月	建築・土木等の設計及び施工管理業務等の請負（現・人材サービス事業）を開始。
1997年2月	子会社株式会社クイックサービスの商号を株式会社クイック・テクノサービスに改称するとともに、建築・土木等の設計及び施工管理業務等の請負を移管。
1997年4月	教育・研修事業（現・リクルーティング事業）及び人材紹介事業（現・人材サービス事業）を開始。
1997年8月	大阪にて有料職業紹介事業の労働大臣（現・厚生労働大臣）許可番号を取得。「大阪人材センター」を開設。
1998年2月	東京にて有料職業紹介事業の労働大臣（現・厚生労働大臣）許可番号を取得。「東京人材センター」を開設。
1999年5月	米国ニューヨークにおいて、現地邦人を対象とした人材派遣・人材紹介を目的として現地法人 QUICK USA, Inc.（現・連結子会社）を設立。
1999年7月	人材紹介会社への一括エントリーサービスを行うポータルサイト「人材バンクネット」の運営（現・IT・ネット関連事業）を開始。
2000年4月	子会社株式会社クイック・テクノサービスを吸収合併。さらにIT分野への進出を目指し、インターネットのコンテンツ企画・制作・運営及びインターネット広告代理部門を独立させ、株式会社アイ・キュー（現・株式会社HRビジョン 現・連結子会社）を設立。
2000年7月	名古屋にて有料職業紹介事業の労働大臣（現・厚生労働大臣）許可番号を取得。「名古屋人材センター」を開設。
2001年3月	大阪にて特定人材派遣の届出を行い、主に電気・ソフトウェア開発等の分野における技術者を契約先企業に派遣する特定労働者派遣事業を開始。
2001年10月	日本証券業協会に株式を店頭登録。
2003年2月	株式会社ケー・シー・シー（現・株式会社カラフルカンパニー 現・連結子会社）の株式を取得し、北陸地区での情報出版事業に進出。
2003年3月	株式会社ケー・シー・シーの子会社であった株式会社キャリアシステム（現・連結子会社）の株式を取得し北陸地区での労働者派遣事業に進出。
2003年6月	中国、上海において、日系企業を中心に人材紹介及び人事労務コンサルティングを目的として現地法人 上海可以可邁伊茲明勝人才諮詢服務有限公司（現・上海魁可企業管理諮詢有限公司 以下「上海クイック有限公司」という。現・連結子会社）を設立。
2003年10月	当社グループの経営の効率化及び意思決定の迅速化を図ることを目的とし、当社テクノサービス部門につき、子会社株式会社キャリアシステムを承継会社とする会社分割を実施。
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所 J A S D A Q に上場。
2011年3月	本店を大阪市北区小松原町（現所在地）に移転。
2012年4月	ベトナム、ホーチミンにおいて QUICK VIETNAM CO., LTD.（現・連結子会社）を設立。
2013年7月	東京証券取引所と大阪証券取引所の統合に伴い、東京証券取引所 J A S D A Q（スタンダード）に上場。
2014年2月	東京証券取引所市場第二部へ市場変更。
2014年9月	東京証券取引所市場第一部銘柄に指定。
2015年7月	QUICK USA, Inc. がメキシコ、アグアスカリエンテスにおいて QUICK GLOBAL MEXICO, S. A. DE C. V.（現・連結子会社）を設立。
2016年4月	人材派遣・人材紹介・保育園運営及びサポートを営む株式会社ワークプロジェクト（現・連結子会社）の株式を取得。
2017年4月	海外事業推進を図るため、株式会社クイック・グローバルを設立。
2017年8月	英国ロンドンにおいて現地日系企業に向けて人材紹介事業及び人材派遣事業を展開する Centre People Appointments Ltd（現・連結子会社）の株式を取得。
2019年10月	人材採用・労務管理等のシステム開発やIT・AIエンジニア教育事業の拡充を図るため、株式会社クロノス（現・連結子会社）の株式を取得。
2019年11月	中国、上海において、新たに現地日系企業を中心に人材紹介サービスの展開を図るため、上海魁可人材服務有限公司（以下「上海クイック人材サービス有限公司」という。現・連結子会社）を設立。
2020年1月	タイ、バンコクにおいて、アジア市場における人材サービスの強化を図るため、QHR Holdings (Thailand) Co., Ltd.（現・QHR Holdings Co., Ltd. 現・連結子会社）及びQHR (Thailand) Co., Ltd.（現・QHR Recruitment Co., Ltd. 現・連結子会社）を設立。
2020年4月	連結子会社である株式会社クイック・グローバルを吸収合併。

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社14社により構成されており、人材サービス事業、リクルーティング事業、情報出版事業、IT・ネット関連事業、海外事業の5つの事業セグメントにおいて、事業を展開しております。

各事業セグメントの事業内容は、以下のとおりです。

#### (1) 人材サービス事業

##### ① 人材紹介

人材紹介におきましては、「職業安定法」に基づき「有料職業紹介事業」の運営を行っております。

当社グループの人材紹介は、登録いただいている転職希望者と求人企業のマッチングを図る登録型人材バンクとしてサービスを提供しております。転職希望者のご登録に当たりましては、自社が運営する登録サイトやインターネット広告等を通じて広く募集を行います。ご紹介に際しては、当社グループのコンサルタントがご登録いただいた転職希望者のキャリアプランや希望条件等をご確認させていただくとともに、求人企業からの採用条件や求人像についてもヒアリングを行い、転職希望者並びに求人企業にとって最適なマッチングを行っております。

求人企業と転職希望者の間で面接等を経て採用が決定した場合、当社は求人企業より成功報酬として紹介手数料を受領いたします。

##### ② 人材派遣・紹介予定派遣・業務請負等

人材派遣におきましては、「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」（以下、「労働者派遣法」という）に基づき、労働者派遣事業を行っております。

人材派遣を行うにあたりましては、自社が運営する登録サイトやインターネット広告等を通じて、派遣での就業を希望する求職者を広く募集し、ご登録いただいております。このご登録者の中から、企業の依頼内容にマッチした人材を選び、企業との間に労働者派遣契約を締結するとともに、ご登録者との間でも期間を定めた雇用契約を締結した上で、企業へ人材を派遣しております。

また、当社グループでは、労働者派遣事業及び有料職業紹介事業の許可を持つ事業者のみが行うことができる有料職業紹介を予定して行う紹介予定派遣に加え、業務請負サービスの提供を行っているほか、認可保育所及び小規模保育事業所の運営を行っております。

人材サービス事業におきましては、①人材紹介は当社と連結子会社である㈱キャリアシステム、㈱ワークプロジェクトが、②人材派遣・紹介予定派遣・業務請負等は連結子会社である㈱キャリアシステムと㈱ワークプロジェクトが事業を行っております。

#### (2) リクルーティング事業

リクルーティング事業におきましては、当事業を企業が抱える採用課題の解消に向けてのコンサルティングと位置づけており、採用活動全般から入社後の人材育成に至るまでの各種サービスをワンストップで提供しております。

主力となる求人広告の取り扱い（広告代理）におきましては、求人募集を行う顧客企業に対し、インターネット上の求人情報サイトや求人情報誌等に掲載する求人広告の案内を行うとともに、顧客企業の採用ニーズに合致した広告制作も行い、これら求人メディアを発行・運営する企業（以下、「出版元」）に求人広告を取次いでおります。求人メディアにつきましては、就職活動を行う学生のための新卒情報媒体、転職を考えている人向けの転職情報媒体のほか、派遣労働やアルバイト・パートを希望する人のための情報媒体など幅広い商品を取り扱っており、顧客企業の採用ニーズにマッチした最適なメディアの提案を行っております。

出版元との取引形態につきましては、当社が広告掲載枠を仕入れ、広告依頼主である顧客企業に対し販売する「代理店形態」と、当社が顧客企業より依頼を受けた求人広告を出版元に取次ぎ、出版元より販売委託手数料を受領する「販売委託形態」の2つの形態があり、これらについては、出版元によって求人メディアごとに取引形態が定められております。

また、顧客企業が採用活動において使用する会社パンフレットの制作や適性検査等の採用支援ツールの提供、求職者集客ツールの運用のほか、採用活動に人員を割けない企業に代わり採用業務の一部を代行する人事業務請負等、顧客企業の採用活動が円滑に進むよう様々なサービスを提供しております。さらに、入社後の教育研修や階層別研修など人材育成サービスも行っております。

リクルーティング事業におきましては、当社が事業を行っております。

### (3) 情報出版事業

情報出版事業におきましては、地域情報誌の出版及びポスティング、コンシェルジュ(対面相談サービス)を行っております。

地域情報誌の出版につきましては、石川県、富山県、新潟県にて、店舗広告や求人広告、住宅広告まで幅広いジャンルの広告と地元情報に特化した編集記事をまとめた無料戸別配布の生活情報誌「金沢情報」、「富山情報」、「高岡情報」、「新潟情報」のほか、北陸の住宅情報誌「家づくりナビ」をはじめとする専門情報誌、ランチスポットやラーメン店等のテーマ別情報誌を発行しております。これら地域情報誌の出版におきましては、顧客企業から出稿された各種広告を情報誌に掲載することによる広告収入及び書籍販売収入を得ております。さらに、求人領域やブライダル領域においては募集及び集客のためのWebプロモーション支援も行っております。

ポスティングにつきましては、石川県、富山県、新潟県において、生活情報誌の宅配ネットワークを活用し、顧客企業から委託された折り込みチラシ等の配布を行っております。また、コンシェルジュ(対面相談サービス)では、転職や家づくり・結婚を考える方々から対面カウンター形式にて希望条件等のヒアリングを行い、お客様の希望に合った顧客企業をご紹介します。このサービスでは、お客様と紹介した顧客企業との間で契約に至った場合、成功報酬として顧客企業より紹介手数料を受領いたします。

情報出版事業におきましては、連結子会社である㈱カラフルカンパニーが事業を行っております。

### (4) その他

#### ①IT・ネット関連事業

IT・ネット関連事業におきましては、人事・労務に関する情報ポータルサイト「日本の人事部」サイトの企画・運営、「HRカンファレンス」をはじめとする「日本の人事部」ブランドのイベント等の企画・運営及び人材ビジネス企業のWebプロモーション支援を行っております。また、2019年10月に㈱クロノスを連結子会社化したことにより、Web・モバイルアプリの開発やAIソリューション、ITエンジニア育成のための研修・セミナー等にも事業領域を拡大しております。

「日本の人事部」サイトの企画・運営につきましては、研修やコンサルティング等の人事サービスを提供する企業の商品やイベント等の情報を同サイトへ掲載することにより、会員である企業経営者・人事担当者に対して人事労務に関する最新情報の提供やイベント等への集客を行い、その対価として、顧客企業より広告収入を得ております。また、「HRカンファレンス」をはじめとする「日本の人事部」ブランドのイベント等におきましては、講演枠等の販売を行うことで、人事サービス企業の販促活動をサポートしております。

また、人材ビジネス企業のWebプロモーションにつきましても、人材紹介会社のポータルサイト「人材バンクネット」をはじめとして、Webサイトやインターネット広告を活用した顧客企業の販売支援サービスを提供することにより、その対価として広告料や報酬を得ております。

一方、Web・モバイルアプリの開発につきましては、企業を中心としたWebシステム及びモバイルアプリの開発支援や受託開発の成果により報酬を得ております。また、AIソリューションにつきましては、データ活用やAI導入に向けた企画からエンジニア育成、基盤開発、運用サポートまで、各フェーズにおける顧客の課題に対応し、AI導入をサポートすることで、コンサルティング及び開発料を得ております。その他、ITエンジニア育成を目的とした研修・セミナー等につきましては、システム開発の最前線に立つ現役ITエンジニアが講師を務め、新入社員向けプログラミング研修や既存エンジニア向けスキルアップ研修等、幅広い階層に対応した企業向けIT研修やセミナーの実施により受講料を得ております。

#### ②海外事業

海外事業におきましては、現地日系企業を中心に、米国では人材紹介及び人材派遣を、中国では人材紹介及び相談顧問サービス等を、メキシコでは人材紹介及び人事労務コンサルティングを、英国では人材紹介及び人材派遣を、ベトナムでは人事労務コンサルティングを、タイでは人材紹介及び人事労務コンサルティング等を行っており、日本からはこれら海外各社への営業支援や事業連携、事業構築の推進等を行っております。

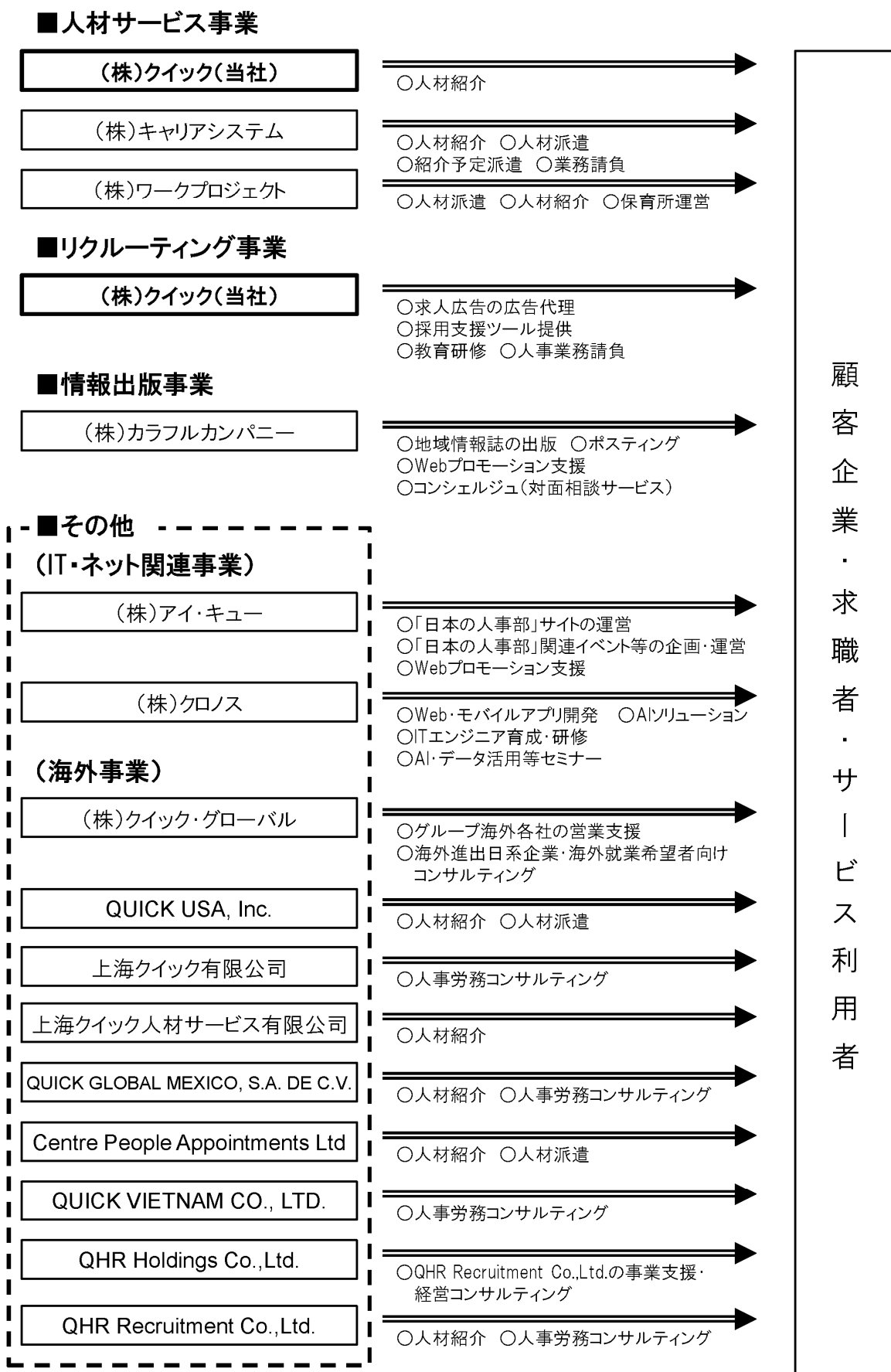
その他におきましては、①IT・ネット関連事業は連結子会社である㈱アイ・キュー及び㈱クロノスの2社が、②海外事業は米国の連結子会社であるQUICK USA, Inc.、中国の連結子会社である上海クイック有限公司及び上海クイック人材サービス有限公司、メキシコの連結子会社であるQUICK GLOBAL MEXICO, S.A. DE C.V.、英国の連結子会社であるCentre People Appointments Ltd、ベトナムの連結子会社であるQUICK VIETNAM CO., LTD.、タイの連結子会社であるQHR Holdings Co., Ltd. 及びQHR Recruitment Co., Ltd. に加え、日本の連結子会社である㈱クイック・グローバルの9社が事業を行っております。

なお、㈱アイ・キューは、2020年4月1日付で㈱HRビジョンへ商号変更しております。

また、当社は、㈱クイック・グローバルを2020年4月1日付で吸収合併しております。



当社グループにおける事業系統図は、次のとおりであります。



(注) 上記関係会社14社は、すべて連結子会社であります。

(株)アイ・キューは、2020年4月1日付で(株)HRビジョンへ商号変更しております。

当社は、(株)クイック・グローバルを2020年4月1日付で吸収合併しております。

#### 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱アイ・キュー	東京都港区	30,000 千円	IT・ネット関連事業	100.0	役員の兼任あり。
㈱カラフルカンパニー (注) 2	石川県金沢市	98,000 千円	情報出版事業	100.0	役員の兼任あり。 債務保証あり。
㈱キャリアシステム (注) 4	石川県金沢市	30,000 千円	人材サービス事業	100.0	役員の兼任あり。
㈱ワークプロジェクト	大阪市北区	20,000 千円	人材サービス事業	100.0	役員の兼任あり。 資金貸付あり。
㈱クイック・グローバル (注) 2	東京都港区	40,000 千円	海外事業	100.0	役員の兼任あり。
㈱クロノス (注) 2	東京都品川区	71,230 千円	IT・ネット関連事業	100.0	役員の兼任あり。
QUICK USA, Inc.	アメリカ合衆国 (ロサンゼルス)	100 千米ドル	海外事業	100.0	役員の兼任あり。
上海クイック有限公司 (注) 2	中華人民共和国 (上海)	340 千米ドル	海外事業	100.0	役員の兼任あり。
QUICK GLOBAL MEXICO, S. A. DE C. V.	メキシコ合衆国 (アグアスカリエン テス)	100 千メキシコペソ	海外事業	89.3 (35.7)	役員の兼任あり。
Centre People Appointments Ltd	英国 (ロンドン)	95 千英ポンド	海外事業	100.0	役員の兼任あり。
QUICK VIETNAM CO., LTD.	ベトナム社会主義 共和国 (ホーチミン)	220 千米ドル	海外事業	100.0	—
上海クイック人材サ ービス有限公司	中華人民共和国 (上海)	300 千米ドル	海外事業	100.0	役員の兼任あり。
QHR Holdings Co., Ltd.	タイ王国 (バンコク)	1,000 千バーツ	海外事業	49.0	役員の兼任あり。
QHR Recruitment Co., Ltd. (注) 2	タイ王国 (バンコク)	20,000 千バーツ	海外事業	100.0 (51.0)	役員の兼任あり。

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. ㈱カラフルカンパニー、㈱クイック・グローバル、㈱クロノス、上海クイック有限公司、QHR Recruitment Co., Ltd. は特定子会社に該当しております。

3. 議決権の所有割合の( )内は、間接所有割合で内数であります。

4. ㈱キャリアシステムについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10を超えております。

主要な損益情報等	(1)売上高	2,523,914千円
	(2)経常利益	172,224千円
	(3)当期純利益	111,986千円
	(4)純資産額	466,059千円
	(5)総資産額	801,277千円

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
人材サービス事業	660 (28)
リクルーティング事業	204 (64)
情報出版事業	139 (27)
報告セグメント計	1,003 (119)
その他	151 (12)
全社（共通）	21 (12)
合計	1,175 (143)

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用者数は（ ）内に当連結会計年度中の平均人員を外数で記載しております。
2. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。
3. 従業員数が前連結会計年度末に比べ172名増加しましたのは、主として業容拡大に伴う定期採用等及び2019年10月1日付で㈱クロノスを連結子会社化したことによるものであります。

### (2) 提出会社の状況

2020年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
783 (79)	30.0	5.8	5,726,957

セグメントの名称	従業員数（人）
人材サービス事業	558 (3)
リクルーティング事業	204 (64)
情報出版事業	— (—)
報告セグメント計	762 (67)
その他	— (—)
全社（共通）	21 (12)
合計	783 (79)

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。）であり、臨時雇用者数は（ ）内に当事業年度中の平均人員を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 全社（共通）として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門等に所属しているものであります。
4. 従業員数が前事業年度末に比べ92名増加しましたのは、主として業容拡大に伴う定期採用等によるものであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは創業以来、人と企業を結ぶ総合人材サービスを提供しており、人材をテーマに社会に貢献すべく事業を展開しております。今後も「人材・情報ビジネスを通じて社会に貢献する」企業として成長を続けてまいります。

当社グループの事業については、「第1 企業の概況 3 事業の内容」に記載のとおりであります。これら各事業において顧客企業や求職者等の市場ニーズに迅速に対応すべく事業の強化・営業体制の整備等を図りつつ、さらにグループ内での情報共有や連携による相乗効果を通じて経営効率の向上に邁進してまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは事業規模の拡大を目指しつつ、独自の営業網や転職希望登録者の獲得ノウハウ等、グループ内の事業資産の有効活用により、利益重視の体制を整える方針であります。新型コロナウイルス感染拡大に伴う景気悪化の影響を受けて短期的には業績縮小も想定されますが、引き続き事業規模の拡大及び利益重視の体制の実現に取り組むことで、早期に業績回復し、安定的な成長と堅実な財務体質の構築に向け、中長期的に売上高経常利益率及び自己資本当期純利益率（ROE）を高めていくことを目指してまいります。

#### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、総合人材サービス・情報サービス企業として業容を拡大することを目指しております。

そのため、主力事業である人材サービス事業の一層の強化を図るとともに、リクルーティング事業、情報出版事業、IT・ネット関連事業、海外事業の中長期的な成長を目指してまいります。

また、各事業において新たなサービス領域の開拓や新商品・サービス・ビジネスモデルの開発に取り組み、市場ニーズの変化に迅速に対応できるよう営業体制の整備を図っていくとともに、事業間での連携を強めることで相乗効果を発揮してまいります。

さらに、海外事業の推進に向けて海外各社と国内事業との連携を強化し、国際間の転職支援（クロスボーダーリクルートメント）市場の開拓を進めることで、世界中でHR（ヒューマンリソース）サービスを展開する「世界の人事部」構想の実現を目指してまいります。

#### (4) 経営環境

足元では新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の終息時期が見通せないことから、世界経済全体の減速が懸念されており、日本経済も企業活動の縮小や停止、消費活動の自粛等を通じ、その影響を大きく受けることが予想されております。

また、雇用情勢につきましても、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により幅広い分野において企業活動が停滞する中、企業業績の低迷や採用計画・活動の見直し等により、飲食・販売・サービス業をはじめとする多くの企業で採用マインドの縮小傾向が続くものと考えられます。しかし、特に国内においては少子高齢化に伴う労働力人口の減少等に伴う構造的な人手不足問題が依然として存在していることから、新型コロナウイルス問題の終息後は徐々に採用需要が回復していくものと想定されます。

#### (5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループは「関わった人全てをハッピーに」という経営理念に基づき、「人材・情報ビジネスを通じて社会に貢献する」を事業理念として、既存事業におけるリニューアルや新サービスを提案するとともに、特定分野においては投資を継続し、深耕することで当該マーケットでのNo.1を目指してまいります。また、グローバルHR（ヒューマンリソース）ビジネスの展開として、海外進出先で人材採用や人事労務課題に直面する日系企業が増える一方、日本国内でも少子高齢化に伴う人手不足が一段と深刻化する中、国内外各企業の人材採用をはじめとする様々な人事課題の解決に貢献する「世界の人事部」構想の実現を目指して、積極的に展開してまいります。

さらには、これらの事業を推進するためのM&A、優秀な人材の採用及び育成にも注力していくことで、当社グループの成長性を高めてまいります。

事業別の課題は次のとおりであります。

## (人材サービス事業)

### ①人材紹介

人材紹介におきましては、建設・土木業界や製薬業界・製造業等の一般企業を対象とした専門性の高い職種の人材紹介、医療施設等を対象とした看護師紹介双方において、登録者獲得をはじめとする競合他社との競争激化が続いております。これに対し、「看護roo!」をはじめとする運営サイトのリニューアル及びコンテンツ拡充によるユーザビリティ向上や効果的なプロモーションの実施により、各種サイトのブランド力の向上、登録者獲得を促進してまいります。また、登録者獲得競争が激化していない新たな専門職種領域の開拓、優秀な人材の積極的な採用及び人材育成の充実により組織全体の競争力を高めてまいります。

### ②人材派遣・紹介予定派遣・業務請負等

人材派遣・紹介予定派遣・業務請負等におきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により一部領域においては人材ニーズが減少しております。しかしながら、当社グループの注力分野である看護師、保育士等の医療・福祉分野の人材ニーズにつきましては、高齢化社会や働き方改革に伴う女性の社会進出等の拡大に伴い、今後も人材ニーズは旺盛な状況が続くと予想されますが、求職者の正社員志向の高まりや競合他社との競争激化により、新たな派遣希望登録者の獲得が課題となっております。これに対し、看護師紹介事業との連携による派遣サービスの浸透のほか、医療・福祉分野の派遣を対象とした「メディアケアキャリア」、保育士派遣を対象とした「ほいとも大阪」といった運営サイトのプロモーション強化やコンテンツ拡充を進めることで各サイトの集客力及びブランド力を高め、派遣希望登録者の獲得に努めてまいります。

## (リクルーティング事業)

リクルーティング事業におきましては、当社取り扱いメディアの競合激化に加え、検索エンジン型の求人広告や成果報酬型の求人広告サービス、人材紹介等、人材採用手法の多様化に伴い、求人広告の取り扱いに関する競争環境は厳しいものとなっております。さらに、この度の新型コロナウイルスの影響により採用活動の中断や延期に踏み切る企業も出てきており、採用ニーズが旺盛だった新型コロナウイルス発生前とは事業環境が一変しております。こうした状況に対し、顧客企業の求人ニーズを一括して把握できる仕組みを構築し、求人広告提案の精度を高めてまいります。一方で、顧客企業の採用課題に対して求人広告にとらわれず最適な採用手法やプロセスの企画提案、それに伴うツール制作やマーケティング実施等、多角的な視点から提案を行うコンサルティング営業の強化により、顧客満足度の向上を追求してまいります。さらに、取り扱いサービスや採用事例の紹介サイト「採用サロン」、セミナーを活用した顧客との接点創出にも注力し、新規顧客の開拓を進めてまいります。

## (情報出版事業)

情報出版事業におきましては、近年、SNSの活用をはじめとする様々なWeb広告の発達等、広告手法の多様化が進んでおり、情報誌への広告出稿が減少傾向となっております。さらに、新型コロナウイルスの影響により、幅広い分野において顧客企業の広告出稿マインドが縮小傾向となっております。こうした状況に対し、メディアサービスにおける新たなマーケットの開拓や営業エリアの拡大、Webサービスやイベント等のその他サービスとの連動強化によって顧客企業及び読者、ユーザーの多様なニーズに対応してまいります。一方で、コンシェルジュ（対面相談サービス）のサービスエリア拡大やメディア掲載のない顧客企業へのポスティングサービス活用の営業強化等により、生活情報誌をはじめとするメディアサービス中心の売上構成からの改善を図ってまいります。

## (その他)

### ①IT・ネット関連事業

IT・ネット関連事業におきましては、同一労働同一賃金等の働き方改革関連法への対応や人手不足解消に向けた女性や高齢者活用の必要性、HRテックの浸透等を背景に、人事サービス業界各社が提供するHRソリューションサービスへの注目度はさらなる高まりが予想されます。こうした中、「日本の人事部」関連サービスのコンテンツ充実やプロモーション強化によるブランド力向上を通じて顧客層及び利用者層の拡大を図っていくことで、安定成長を実現できる事業基盤を構築してまいります。また、新型コロナウイルスの影響によるイベント自粛の動きに対しては、「HRカンファレンス」のライブ配信をはじめとする開催方法の多様化等により、出展企業及びイベント参加者のニーズにお応えしてまいります。

システム開発事業及びラーニング事業の両事業におきましては、IT人材の市場価値が高まりエンジニアの採用ニーズが活性化する中、システム開発に携わる開発エンジニアの獲得・定着、さらに業績拡大に向けた新規顧客の開拓等が課題となっております。こうした状況に対し、エンジニアのキャリア形成のサポートや、開発実績やノウハウを持つ類似案件の受注推進により業務の効率化を図り、業務負担の軽減にも努めてまいります。また、開発事業におけるグループ内での情報共有や協業、連携を進めるほか、ラーニング事業においても、新型コロナウイルスの影響を想定し、オンライン化を実現した企業向け新入社員研修に加えて、その他の研修・セミナーのライブ配信、既存コンテンツを活かした定額型IT研修サービス等の実現により、今まで以上に新規顧客の開拓と既存顧客の満足度向上に取り組んでまいります。

## ②海外事業

海外事業におきましては、米国では新型コロナウイルスの影響により雇用情勢が急速に悪化しております。また、新型コロナウイルスの感染問題終息後も、政府による外国人の就労ビザ更新及び取得の厳格化により求職者優位の売り手市場は継続することが予想され、競合他社との競争環境に変化はないと考えられます。こうした状況に対し、拠点展開による新たなマーケットの開拓や現地日系企業に向けた人事労務関連情報の配信等を通じ、米国内での認知度向上を図るとともに、グループ各国拠点との情報共有や連携営業により求人案件及び登録者の獲得に努める等、事業基盤の拡大を図ってまいります。

中国では、現地日系企業で労務問題が顕在化するケースが多く、また、新型コロナウイルス感染拡大時の対応策等、人事労務コンサルティングサービスに対するニーズは高い状況が続いております。こうした状況に対し、上海クイック有限公司においては、人事労務全般に関する課題解決から社員教育までを包括的にサポートできるよう、自社スタッフの採用及び育成により営業・サービス体制を充実させ、人事労務コンサルティング会社としての信頼性や競争力を高めてまいります。また、上海クイック人材サービス有限公司においては、新型コロナウイルスの影響により本格始動のタイミングが遅れたため、当面は業務フローの構築や人材採用及び育成、ブランド浸透等、事業体制の構築に注力してまいります。

メキシコでは、新型コロナウイルスの影響により、主要顧客層である自動車関連メーカーの採用ニーズが先行き不透明な状況となっております。こうした状況に対し、自社スタッフの採用及び育成により営業力を高めるとともに、運営サイトのコンテンツ拡充やプロモーション強化、グループ各国拠点との連携を図り、新たな登録者及び求人案件獲得に努めてまいります。

英国では、新型コロナウイルスの影響により外出禁止令が発令される等、企業活動が大きく制限される中、英国内の雇用情勢も減速が予想されます。こうした状況に対し、欧州各国の日系企業、現地企業等へのアプローチを強化し、新たな顧客開拓と幅広い求人案件の獲得に努めるとともに、運営サイトのコンテンツ拡充及びプロモーション強化による登録者獲得にも注力し、新型コロナウイルスの感染問題終息後、欧州各国への国際間の転職支援（クロスボーダーリクルートメント）を軌道に乗せていくための事業基盤の強化を進めてまいります。

ベトナムでは、新型コロナウイルスの影響による外国人の渡航禁止や新規ビザの発給停止等、政府による規制を背景に日系企業の新規進出が停滞しているほか、現地日系企業の日本人採用に関するニーズも鈍化しております。こうした状況に対し、Webプロモーション強化等による日本人・ベトナム人登録者の獲得を進める等、新型コロナウイルスの感染問題終息後、主力の採用支援サービスをさらに拡大させるための事業基盤の強化を進めてまいります。

タイでは、2020年1月の会社設立、3月の人材紹介ライセンス取得後の営業開始以降、新型コロナウイルスの影響を受け、採用市場の収縮と政府からのテレワーク推進により顧客企業の採用意思決定が長期化する等、苦戦が続いております。こうした状況に対し、新型コロナウイルスの感染問題終息後に、営業活動の再スタートがスムーズに切れるよう、注力分野のマーケティングや登録者獲得のための運営サイトの構築、自社スタッフの育成等を進めてまいります。

また、日本では当社が中心となり、これら海外子会社の営業支援を行うとともに、海外各社が連携して人材サービスを展開できるビジネスモデルの構築を進めることで、グループビジョンである「世界の人事部」構想の実現を目指してまいります。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。また、必ずしも事業上のリスクに該当しない事項についても、投資判断あるいは当社グループの事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資者に対する積極的な情報開示の観点から記載しております。当社グループはこれらのリスクが発生する可能性を認識した上で、発生回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 市場動向について

当社グループは、人材サービス事業、リクルーティング事業及びその他（IT・ネット関連事業等）において、企業等の多様な人材ニーズに応えるべく人材関連のビジネスを展開しております。そのため当社グループの財政状態及び経営成績は、景気動向や雇用情勢の変化、企業等における人材採用活動や人材育成の動向等により影響を受ける可能性があります。

中長期的には、人口動態、就業意識の変化や働き方、雇用・就業形態の多様化等の構造的変化が生じた場合、顧客ニーズに応じたサービス提供等の変化が求められ、当社グループの事業展開・業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、情報出版事業におきましては、採用広告に加えて飲食店やショップ、住宅メーカー等の販促広告を取り扱っておりますが、顧客企業の広告費は景況に応じて調整されるため、景気動向の影響を受けやすい傾向があります。このため、国内の景気動向が悪化した場合、顧客企業の販促ニーズの減退等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、取締役会等において定期的に各事業における市場動向や顧客ニーズの変化等について情報共有を図り、注力分野の選択や新たな商品・サービスの開発をはじめとする経営判断を迅速に行うことで、これらのリスクの軽減に努めてまいります。

### (2) 競合について

当社グループは、人材サービス事業、リクルーティング事業、情報出版事業及びその他（IT・ネット関連事業等）を展開しておりますが、いずれも比較的参入障壁が低い事業であることからベンチャー企業から大企業まで競合関係が生じております。各事業において、今後一層の競争激化が生じた場合には、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

これに対し当社グループは、既存商品及びサービスの質向上や営業強化に加え、新たなマーケットの開拓や新商品・サービス・ビジネスモデルの開発に取り組むことで他社との差別化に努めてまいります。

### (3) 人材サービス事業（人材紹介）における看護師分野への注力について

当社グループは、人材サービス事業（人材紹介）において看護師紹介業務に注力しております。近年の医療機関等における慢性的な看護師不足を背景として、看護師分野の人材需要は高水準で推移しており、今後も同様の傾向が続くものと当社は想定しておりますが、医療分野における規制緩和等により人材需給が緩和する場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、当該業務分野は、事業者間の受注競争や求職者の獲得競争が激しい状況にあり、今後も一層の激化が想定されます。当社グループにおいては、効果的なプロモーションやきめ細かなコンサルティングの実施等により競争力を維持・向上させていく方針ですが、競合他社との差別化が困難となった場合には、受注や採算性の確保が困難となり、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

これに対し当社グループは、看護師分野以外の専門職・技術職の人材紹介の営業強化及び新規マーケットの開拓を進めていくことで看護師紹介への依存度の軽減を図り、業績の安定化に取り組んでまいります。

(4) リクルーティング事業におけるリクルート社との取引について

当社グループは、リクルーティング事業において、リクルート社の求人広告掲載枠を取扱っております。当該取引については、代理店形態（当社が広告掲載枠を仕入れて広告主に販売する形態）及び販売委託形態（当社が広告主の求人広告を同社に取次ぎ販売委託手数料を受領する形態）があり、これらは契約に基づき求人広告媒体ごとに取引形態が定められております。

なお、リクルーティング事業において取り扱う求人広告掲載枠は、一部を除きリクルート社の求人広告媒体に掲載されるものであり、当該事業における同社に対する依存度は高い水準にあると言え、同社の営業戦略・販促施策の変更（契約形態の変更を含む）や同社求人広告媒体の優位性低下等が生じた場合、当社グループの事業展開・業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

これに対し当社グループでは、顧客企業の採用戦略構築のためのコンサルティングや採用サイトをはじめとする採用ツールの制作、採用実務請負、入社後の社員研修等、求人広告取り扱い以外のサービスの充実、営業強化により、リクルート社の求人広告取り扱いへの依存度の軽減に取り組んでまいります。

(5) 情報出版事業における配布業務及び印刷業務について

情報出版事業においては、連結子会社(株)カラフルカンパニーにおいて、生活情報誌を各家庭に対して戸別に配布しておりますが、ポスティング方法や時間帯等に起因して、配布対象地域の各家庭からクレーム等が生じる可能性があります。なお、一部地域の情報誌については、配布業務を外部事業者にて全て委託しておりますが、何らかの理由で配布業務委託の継続が困難となった場合、当該事業の事業展開及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、情報出版事業については、全ての情報誌媒体の印刷業務を外注しておりますが、外注先における何らかのトラブル等により、情報誌媒体の発行日及び配布に遅延が生じた場合は、顧客及び読者からの信頼性低下により、当社グループの事業展開・業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) IT・ネット関連事業における情報セキュリティについて

IT・ネット関連事業においては、連結子会社(株)クロノスにおいて、Webシステムやモバイルアプリの開発を手掛けており、業務遂行上、顧客の有する個人情報や事業上の機密情報等を一時的に保持することがあります。これらの情報の取り扱いにつきましては細心の注意を払い、情報や情報機器、システムに関する定期的な社内教育の徹底に加え、内部監査の実施、社内における情報セキュリティ委員会の設置、ISO27001（ISMS/情報セキュリティマネジメントシステム）認証の更新等の対策を講じており、情報セキュリティの継続的な確保に努めております。しかしながら、これらの施策にも関わらず、情報の流出が発生した場合は、顧客からの信用低下や損害賠償請求等の発生により、当社グループの事業展開・業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 海外展開について

当社グループは、米国（ロサンゼルス、ニューヨーク）、中国（上海）、ベトナム（ホーチミン）、メキシコ（アグアスカリエンテス、ケレタロ）、英国（ロンドン）及びタイ（バンコク）に子会社を有しており、人材紹介・人材派遣・人事労務コンサルティング等の事業を展開しております。海外での事業展開においては、為替変動・現地の法規制や行政政策の変更・人件費等の変動・テロや暴動・感染症の発生及び拡大等の危険性など、経済的・社会的及び政治的リスクが潜在しており、これらの動向により、当社グループの事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 業績の季節的変動について

当社グループは、人材サービス事業（人材紹介）において、紹介した求職者が求人事業者に入職した日付を基準として売上計上することとしておりますが、これにより入退社や配置転換等と連動した人事異動が行われる年度始め（4月）に収益が集中する傾向があります。特に、看護師分野において4月入職の割合が高いことを要因として、当社グループの連結業績は、第1四半期に利益が集中する傾向が生じております（2020年3月期の四半期業績は「第5 経理の状況 1連結財務諸表等（2）その他 当連結会計年度における四半期情報等」をご参照下さい）。

上記の人材サービス事業の今後における業績動向により、当社グループの連結業績に季節的変動が生じ、当該傾向が継続する可能性があります。

これに対し当社グループでは、看護師分野以外の専門職・技術職の人材紹介マーケットの開拓を進めることで、業績の平準化に努めてまいります。



(9) 人材の確保及び育成について

当社グループは、更なる業容拡大及び収益力強化、競合他社との差別化のために、優秀な人材の採用及び育成を重要な経営課題に掲げ採用活動に取り組むとともに、人材育成と実務能力の向上を目的とした社員研修にも注力しております。しかしながら、近年深刻化が進む人手不足の影響により、各事業において、人材の採用及び育成が計画どおりに進まない場合又はスキルを有する人材の流出が生じた場合には、当社グループの事業活動に支障又は制約が生じる可能性があり、業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(10) 法的規制等について

当社グループのうち、人材サービス事業においては、有料職業紹介及び労働者派遣等にかかる厚生労働大臣の許可又は届出が必要となるほか、職業安定法、労働者派遣法及び関連法規の規制を受けております（海外においても、事業にかかる規制が同様に存在しております）。今後において、何らかの理由により当社グループの法規制等に抵触する事由が生じた場合や、法規制の新たな制定や重要な変更が生じた場合には、当社グループの事業活動に支障が生じるリスクがあり、これにより業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

また、連結子会社㈱ワークプロジェクトにおいて運営しております各保育施設は、主に児童福祉法に基づき許認可を受けておりますが、今後、何らかの事由によりこれらの許認可が取り消された場合や営業停止となった場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を及ぼす場合があります。

これらに対し当社グループは、関連法案に関する法改正等の動きを注視し、法規制の新たな制定や重要な変更による事業活動への影響を軽減するための体制・施策等の構築等に取り組んでまいります。

(11) 検索エンジンへの対応について

当社グループが運営するサイトの利用者の多くは検索サイトを利用して必要な情報を入手しており、当社グループが運営する各サイトにおいても、これらの検索サイトから多くの求職者や利用者を集客しております。また、より多くの求職者や利用者を集客するためのコンテンツ制作、ユーザビリティ向上のためのシステム構築、効果的なプロモーション実施のためのスキルに長けた人材を積極的に採用し、サイト運営に取り組んでおります。今後、検索エンジン運営者における上位表示方針の変更等の何らかの要因により、検索結果の表示が当社グループに優位に働かなくなり、当社グループが運営する各サイトの集客効果が低下した場合、当社グループの事業展開・業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 保育に関する国や自治体の方針について

人材サービス事業において、連結子会社㈱ワークプロジェクトでは認可保育所及び小規模保育事業所を運営しておりますが、今後、国や自治体の子育て支援事業に関する方針について改訂等が実施され、補助金の削減や民間企業による保育所の開設等が認められなくなった場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

これらに対し当社グループは、国や自治体の子育て支援事業に関する方針等の動きを注視し、方針の改訂等による事業活動への影響を軽減するための体制・施策等の構築等に取り組んでまいります。

(13) 保育施設における事故について

人材サービス事業において、連結子会社㈱ワークプロジェクトは保育施設を運営するにあたり、お預かりする児童の安全を第一に考え、万全の体制で業務に臨んでおります。しかしながら、事故の可能性は皆無とは言えず、万が一、施設運営に関する重大な事故やトラブル等が発生した場合、当局から営業停止の命令を受けたり、多くの児童が退園する可能性があります。また、事故等の内容によっては損害賠償請求の発生や社会的信用の失墜により、当社グループの事業活動、業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(14) 個人情報管理について

人材サービス事業においては、労働者保護の観点から転職希望者や派遣登録者等の個人情報の管理について必要な対策を講じることが義務付けられており、情報漏洩等については罰則規定も設けられております。また、保育施設においては数多くの児童及びその保護者の氏名や住所等の個人情報も所持しております。

当社グループにおいては、これら転職希望者や派遣登録者、保育施設の利用者等の個人情報について、個人情報保護方針に基づきプライバシーマーク制度を導入するなど、Webサイト及びシステムにおけるセキュリティや事業所における管理体制強化を推進しており、一定の管理体制を構築しているものと認識しております。

しかしながら、当社において何らかの理由により当該個人情報等の漏洩が生じた場合には、当局より業務停止や許可取消等の処分が行われる可能性があります。また、損害賠償請求等の発生や社会的信用の失墜等により、当社グループの業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(15) 知的財産権について

当社グループは、Webサイトの運営や情報誌等の発行のほか、Webシステムやモバイルアプリの開発等にあたり、第三者の知的財産権侵害の可能性について調査可能な範囲で対応を行い、著作権や商標権等の知的財産権を侵害することのないよう努めております。しかしながら、予期せず第三者の知的財産権を侵害するなどの事態が発生した場合には、損害賠償請求や重要な技術の使用停止措置等により、当社グループの事業活動・業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(16) 訴訟に関するリスクについて

当社グループは、上場企業としての社会的責任を果たすため、社内研修の充実、諸規程の整備及び運用など適宜、内部管理体制及び教育制度等を整備しております。また、適切な内部統制システムの整備及び運用については、事業展開の状況に応じて徹底を図ってまいります。しかしながら、当社グループ及び役職員の瑕疵に関わらず、取引先や第三者との間で予期せぬトラブルが発生し、訴訟等に至った場合、当社グループの事業活動に支障が生じるとともに、損害賠償請求等の発生や社会的信用の失墜により、当社グループの事業活動・業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(17) 災害及びシステム障害等について

当社グループの国内拠点は東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、石川、富山、福井、新潟、宮城にエリア分散して事業を展開しており、海外におきましてはロサンゼルス、ニューヨーク、上海、ホーチミン、アグアスカリエンテス、ケレタロ、ロンドン及びバンコクに事業拠点を有しております。そのため、これらの地域において大規模な地震・風水害等の自然災害やテロ、その他不測の事故や新型コロナウイルス感染症に代表される新たな感染症が発生し、当該地域の事業所や人的資源等において直接の被害を被った場合や、取引先の採用活動や販促活動・事業活動に支障が生じた場合、当社グループの業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

これらの災害等に対し当社グループは、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするためのBCP（事業継続計画）を策定・整備し、局地的な災害・事故等の発生時には他拠点からの事業活動・業務支援が行えるように体制を整えてまいります。

また、当社グループの事業はコンピュータシステム及びそのネットワークに多くを依存しております。このため、広範な自然災害や事故の発生、コンピュータウイルスやハッカーの侵入等により、システム障害が生じた場合、当社グループの事業活動・業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

これらの中でも、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、当社グループは様々な面で影響を受けております。まず、政府からの要請や感染拡大防止の観点から営業時間短縮や休業、イベント自粛等の影響により顧客企業の採用ニーズや販促ニーズが減少傾向となっております。これらは感染拡大が沈静化し、国内景気が回復基調になるまで継続すると見込まれるため、今後、新型コロナウイルスの影響がさらに拡大、長期化した場合、当社グループの事業活動・業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

また、新型コロナウイルスに感染した場合、重篤化するリスクや長期間の隔離・療養が必要とされ、事業に従事できないリスクがあることから、当社グループでは従業員の健康・安全と事業継続に向け、一部を除き在宅勤務への移行を進めております。しかしながら、現状では感染リスクを完全に排除することは困難であり、万一、社内での感染が発生した場合は、事業所の閉鎖や一次休業等の措置により、当社グループの事業活動・業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

なお、新型コロナウイルスの終息時期は依然として不透明であり、前述以外の記載されていないリスク及び新型コロナウイルスの最終的な影響については予測しがたく、それらが当社グループの事業活動・業績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

これらに対し当社グループは、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響等については注視しながら、在宅勤務等の新たな働き方により生産性向上の追及を行い、第2波が起きた際にも事業活動が継続できるように対策を行ってまいります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

#### ①財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度における日本経済は、製造業を中心に企業収益に陰りが見られたものの、雇用・所得環境の改善等を背景に緩やかな回復基調が続いておりました。しかしながら、2019年10月からの消費税増税による個人消費の落ち込み、米中貿易摩擦問題等の不安定な国際情勢による海外経済の減速、さらに当第4四半期以降の新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴う経済活動の停滞により、景気の減速懸念が非常に高まっております。

国内の雇用情勢につきましては、少子高齢化による労働力や生産年齢人口の減少等の構造的要因により、様々な分野で人手不足が深刻化しており、2020年3月の有効求人倍率（季節調整値）は1.39倍、完全失業率（季節調整値）も2.5%と、各雇用関連指標も企業の手不足感を表す結果となっております。しかしながら、新型コロナウイルスの影響による製造業の稼働率低下や飲食・販売・サービス業における営業時間短縮や営業自粛等の動きを背景に、直近の企業の採用ニーズは減少傾向となっております。

このような事業環境の中、当社グループでは既存サービスの強化に加え、新たな注力分野の開拓やサービスの開発、グループ内での連携強化等により人材採用をはじめとする顧客企業の課題解決をサポートし、他社との差別化や顧客満足度の向上に取り組みました。また、優秀な人材の積極的な採用等、人材への投資により事業基盤の強化を進めてまいりました。

なお、当連結会計年度より、株式会社クロノスを株式取得により連結の範囲に含めております。これに伴い、セグメント情報において「その他」に含まれている「ネット関連事業」を「IT・ネット関連事業」と名称変更し、当該事業に同社を含めております。また、中国に新たに上海クイック人材サービス有限公司を設立し、タイ王国（以下、「タイ」）にも新たにQHR Holdings Co., Ltd. 及びQHR Recruitment Co., Ltd. を設立したため、これらを連結の範囲（海外事業）に含めております。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

#### a. 財政状態

当連結会計年度末における連結総資産は13,558百万円（前年同期比7.7%増）となり、前連結会計年度末と比較して966百万円増加しました。

連結総負債は4,094百万円（前年同期比3.3%減）となり、前連結会計年度末と比較して138百万円減少しました。

連結純資産は9,464百万円（前年同期比13.2%増）となり、前連結会計年度末と比較して1,105百万円増加しました。

#### b. 経営成績

当連結会計年度における当社グループの売上高は21,035百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益は2,930百万円（同13.5%増）、経常利益は3,009百万円（同6.8%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,074百万円（同5.5%増）と、10期連続の増収増益を達成するとともに、売上高・利益とも過去最高を更新しました。

セグメントごとの経営成績（報告セグメント及びその他）は、次のとおりであります。

#### (人材サービス事業)

##### 1. 人材紹介

人材紹介では、建設・土木分野や第5世代移动通信システム（5G）普及に関連する半導体業界等で採用ニーズが旺盛だった一方、米中貿易摩擦問題を受けて採用に慎重な企業が一部で見られたほか、今期末にかけては新型コロナウイルスの影響により採用活動を中断、延期する企業も出始めてきました。こうした中、注力分野の絞り込みや営業強化による選択と集中の取り組みが奏功し、一般企業向け専門職・技術職の人材紹介の業績は順調に拡大しました。また、病院や介護施設等を対象とした看護師紹介は、依然として採用ニーズは旺盛な状況が続いておりますが、競合他社との登録者獲得競争に加え、新たな採用サービスとして求人検索エンジンや成果報酬型メディアが台頭してくる等、競争環境は激しさを増してきております。こうした中、効果的なプロモーションや運営サイトのコンテンツ充実、きめ細かな登録者対応、クリニックをはじめとする新規顧客開拓等を進めたことで、業績は順調に推移しました。

## 2. 人材派遣・紹介予定派遣・業務請負等

人材派遣・紹介予定派遣・業務請負等では、当第4四半期に入り、新型コロナウイルスの影響による臨時休校等により、一部派遣スタッフの欠勤や休業がありました。医療・福祉分野における旺盛な採用ニーズを背景に、登録者獲得のための効果的なプロモーション等の施策が奏功し、看護師派遣及び保育士派遣とも順調に推移しました。また、パートタイム派遣につきましても、新型コロナウイルスの影響により派遣スタッフの稼働数が減少傾向となったものの、雇用情勢の改善により正社員の採用やフルタイム派遣スタッフの確保が難しい中、勤務日数や勤務時間の少ないパートタイム派遣の活用が企業にも浸透してきたことで、専門性の高いIT・Web関連職種やオフィスワーク等を中心に業績は拡大しました。

これらの結果、人材サービス事業の売上高は13,217百万円（前年同期比14.9%増）、営業利益は2,487百万円（同25.4%増）となりました。

### (リクルーティング事業)

リクルーティング事業では、新卒採用領域において学生優位の売り手市場が続いており、2021年3月卒業予定の大学生をターゲットとしたインターンシップサイトへの広告やイベントの取り扱いが順調に推移してまいりました。しかしながら、当第4四半期に入り、新型コロナウイルスの影響により合同企業説明会等の3月の取り扱いイベントが全て中止となったこと等に伴い、売上高が減少しました。また、中途採用領域におきましても人手不足の深刻化を背景に、前期より本格的に開始したIndeedの取扱いは大きく拡大しましたが、新型コロナウイルスの影響に伴う顧客企業の採用活動の中断、延期等に伴い、正社員及びアルバイト・パートの求人広告の取扱いは、期末にかけて減速傾向となりました。

なお、派遣登録スタッフ募集のための一部メディアにつきましても、2018年12月より契約形態が代理店形態から販売委託形態に変更され、取扱手数料のみの売上計上となったため、前年同期と比較して売上高が減少しましたが、仕入原価である広告掲載費を差し引いた粗利は順調に拡大しました。

この結果、リクルーティング事業の売上高は3,734百万円（前年同期比5.7%減）、営業利益は901百万円（同10.1%減）となりました。

### (情報出版事業)

情報出版事業では、昨秋の消費税増税による個人消費や住宅取得需要の低下に加え、当第4四半期以降の新型コロナウイルスの影響に伴い、飲食店やサービス業等の一部顧客企業の経営環境の悪化やイベントの中止等を背景とした販促ニーズの低下により、生活情報誌や住宅情報誌「家づくりナビ」の業績がほぼ横ばいとなりました。なお、前期下半期よりスタートしたIndeedの取り扱いについては、人手不足に伴う採用ニーズを背景に順調に推移しました。

また、メディア以外のサービスでは、折り込みチラシ等のポスティングサービスが堅調だったものの、新型コロナウイルスの影響により3月に入り業績は鈍化傾向となりました。一方、「ココカラ。」ブランドで展開するコンシェルジュサービスは、転職・家づくり・ブライダルの全領域とも業績は順調に拡大しました。

この結果、情報出版事業の売上高は2,093百万円（前年同期比5.7%増）、営業利益は196百万円（同10.4%増）となりました。

### (その他)

#### 1. IT・ネット関連事業

IT・ネット関連事業では、人材採用や育成、人事システム構築等、企業の人事戦略をサポートするHRソリューションビジネスへの関心は依然として高い状況が続いており、2月以降、新型コロナウイルスの影響により集合型研修等の広告取り扱いが減少したものの、人事・労務に関する情報ポータルサイト「日本の人事部」の広告収入は堅調に推移しました。こうした中、2019年5月及び11月に開催した人事イベント、日本の人事部「HRカンファレンス」は年間来場者数及び年間売上高とも過去最高を更新し、「日本の人事部」を運営する株式会社アイ・キュー（現・株式会社HRビジョン）の最高益更新に貢献しました。

また、2019年10月より連結子会社化した株式会社クロノスにおきましても、システムの受託開発やAI関連の研修の受注等により売上高が拡大しました。並行して、2020年4月から6月に集中的に実施を予定している顧客企業向け新入社員研修用のテキスト作成等の準備を進めており、そのための要員手配をはじめとする経費の発生等により費用が先行しました。こうした中、新型コロナウイルスの影響を予測し、早期に集合型研修をオンライン型へ変更する等、感染予防及び受講者の健康と安全を確保することで、業績維持に努めております。

## 2. 海外事業

海外事業では、北中米（米国及びメキシコ）において、米国では外国人の就労ビザ取得の厳格化の動きに変化はなく、現地日系企業における日英バイリンガル人材の正社員採用は旺盛な状況が続いており、メキシコでも引き続き自動車関連メーカーの通訳及び営業職の正社員採用ニーズが強いことから人材紹介が堅調に推移しました。一方、米国での人材派遣はイベントスタッフ派遣の受注等、年末にかけて業績は拡大傾向となりましたが、求職者の正社員志向の高まりもあり、前期業績には及びませんでした。

アジア（中国及びベトナム）においては、ベトナムでの建築、アパレル、IT業界等における堅調な採用ニーズを背景に、現地日系企業への日本人及びベトナム人の人材採用コンサルティングが好調でした。また、中国では2019年11月、上海市に人材紹介を展開する上海クイック人材サービス有限公司を新たに設立しました。既に上海市で事業を展開する上海クイック有限公司と連携し、現地日系企業の人材採用や人事労務、教育関連のニーズに対応できる事業基盤の構築に取り組みました。

英国においては、英国国内企業への人材紹介に加え、英国から欧州企業への転職をサポートする国際間の人材紹介がともに順調に拡大しました。また、人材派遣の売上高につきましては為替の影響により日本円ベースではほぼ横ばいとなりましたが、現地通貨ベースでは堅調に推移しております。

なお、各社に対して、株式会社クイック・グローバルが営業支援を行ってまいりましたが、現地社員の赴任前研修や営業サポート等の支援体制の拡充により費用が先行いたしました。

これらの結果、その他の売上高は1,990百万円（前年同期比14.9%増）、営業利益は179百万円（同18.5%減）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の増減額は、法人税等の支払、配当金の支払等はありませんでしたが、税金等調整前当期純利益の計上等により、前連結会計年度末に比べ1,080百万円資金が増加し、当連結会計年度末における残高は7,415百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

法人税等の支払1,090百万円等により資金が減少しましたが、税金等調整前当期純利益3,014百万円の計上等により資金が増加したため、営業活動の結果得られた資金は2,463百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資有価証券の売却による収入112百万円等により資金が増加しましたが、有形及び無形固定資産の取得による支出546百万円等により資金が減少したため、投資活動の結果使用した資金は392百万円（前年同期比18.2%増）となりました。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

配当金の支払847百万円等により資金が減少したため、財務活動の結果使用した資金は990百万円（前年同期比32.7%増）となりました。

③生産、受注及び販売の実績

a. 仕入実績

当社グループの各事業における仕入実績につきましては、提供するサービスの性格上該当事項がない又は金額が僅少であることから、記載を省略しております。

なお、業務上、当社グループの仕入に類似するリクルーティング事業の求人広告掲載費用を参考として示すと次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比 (%)
求人広告掲載枠取扱額 (千円)	320,615	42.2

(注) 1. 上記のうち、主な相手先別の取扱額及び総取扱額に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
株式会社リクルート	742,471	97.6	305,131	95.2

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

b. 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	前年同期比 (%)
人材サービス事業 (千円)	13,217,957	114.9
リクルーティング事業 (千円)	3,734,389	94.3
情報出版事業 (千円)	2,093,330	105.7
報告セグメント計 (千円)	19,045,678	109.2
その他 (千円)	1,990,036	114.9
合計 (千円)	21,035,714	109.7

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)		当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
株式会社リクルート	2,473,544	12.9	2,553,219	12.1

3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

①財政状態及び経営成績の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 財政状態の分析

当連結会計年度末における連結総資産は13,558百万円（前年同期比7.7%増）となり、前連結会計年度末と比較して966百万円増加しました。主な要因は、投資有価証券は減少しましたが、現金及び預金が増加したこと等によるものであります。

連結総負債は4,094百万円（前年同期比3.3%減）となり、前連結会計年度末と比較して138百万円減少しました。主な要因は未払金、未払法人税等が減少したこと等によるものであります。

連結純資産は9,464百万円（前年同期比13.2%増）となり、前連結会計年度末と比較して1,105百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。なお、自己資本比率は前連結会計年度末と比較して3.4ポイント改善し69.8%となりました。

b. 経営成績の分析

売上高

当社グループでは既存サービスの強化に加え、新たな注力分野の開拓やサービスの開発、グループ内での連携強化等により人材採用をはじめとする顧客企業の課題解決をサポートし、他社との差別化や顧客満足度の向上に取り組みました。また、優秀な人材の積極的な採用等、人材への投資により事業基盤の強化を進めてまいりました。

なお、当連結会計年度より、株式会社クロノスを株式取得により連結の範囲に含めております。これに伴い、セグメント情報において「その他」に含まれている「ネット関連事業」を「IT・ネット関連事業」と名称変更し、当該事業に同社を含めております。また、中国に新たに上海クイック人材サービス有限公司を設立し、タイにも新たにQHR Holdings Co.,Ltd.及びQHR Recruitment Co.,Ltd.を設立したため、これらを連結の範囲（海外事業）に含めております。

この結果、当連結会計年度における当社グループの売上高は、21,035百万円と前年同期比9.7%の増加となりました。人材サービス事業の売上高は、一般企業向け専門職・技術職の人材紹介が順調に拡大し、13,217百万円（前年同期比14.9%増）となりました。また、他のセグメントについては、リクルーティング事業は、前期より本格的に開始したIndeedの取り扱いが大きく拡大しましたが、新型コロナウイルスの影響により合同企業説明会等の3月の取り扱いイベントが全て中止となったことや、顧客企業の採用活動の中断、延期等に伴い、正社員及びアルバイト・パートの求人広告の取り扱いが期末にかけて減速傾向となったことにより売上高が減少し、3,734百万円（同5.7%減）となりました。情報出版事業は、Web関連商品及びコンシェルジュサービスが順調に拡大し、2,093百万円（同5.7%増）となりました。その他では、IT・ネット関連事業において、人事・労務に関する情報ポータルサイト「日本の人事部」の広告収入が堅調に推移したことや、㈱クロノスを連結子会社化したこと等により売上高が拡大し、1,990百万円（同14.9%増）となりました。

売上原価、販売費及び一般管理費

当連結会計年度における当社グループの売上原価は、前年同期比7.8%増の8,115百万円となりました。人材サービス事業の売上高が順調に増加したこともあり、売上原価率は38.6%となり、前年同期より0.7ポイント改善いたしました。

販売費及び一般管理費は、採用強化等による人材投資に係る人件費の増加等もあり、前年同期比10.3%増の9,989百万円となりました。

営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益

以上の結果、営業利益は前年同期比13.5%増の2,930百万円となりました。営業外収益において、受取販売協力金46百万円等の計上、また、営業外費用において為替差損4百万円等が計上された結果、経常利益は前年同期比6.8%増の3,009百万円となりました。

さらに、特別利益において政策保有株式の縮減に伴う投資有価証券売却益63百万円、また、特別損失において海外事業（セグメント情報においては「その他」）に係るのれんの減損損失60百万円を計上したほか、法人税等939百万円の計上等により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比5.5%増の2,074百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況の分析・検討内容並びに資本の財源及び資金の流動性に係る情報

a. キャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度において、営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益が前連結会計年度比で増加し、投資を行うための十分な資金を獲得しました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に事務所等に係る設備投資や社内システムへの投資であります。財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入金の返済や配当金の支払であります。フリー・キャッシュ・フローの範囲内であり、事業の運営に影響を与えるものではありません。

なお、当連結会計年度のキャッシュ・フローの概況については、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ②キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

[キャッシュ・フローの参考資料]

	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期
自己資本比率 (%)	66.6	66.4	69.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	342.1	268.7	136.7
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	0.1	0.1	0.1
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	623.8	1,190.4	1,112.9

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注) 1. いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

2. 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

3. キャッシュ・フローは営業活動によるキャッシュ・フローを利用しております。

4. 有利子負債は連結貸借対照表に計上された負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象としております。

5. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を2019年3月期の期首から適用しており、2018年3月期に係る数値については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値となっております。

b. 資本の財源及び資金の流動性

資本政策については、財務の健全性や資本効率等を考慮し、将来の事業展開の為に内部留保の充実と、株主への利益還元とのバランスを考えながら実施していくことを基本としております。

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、従業員に係る人件費等であります。投資を目的とした資金需要のうち主なものは、事業所等の附属設備への投資、社内システムへの投資であります。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。

短期運転資金は自己資金を基本としており、必要に応じて金融機関から資金調達することとしております。また、設備投資や長期運転資金についても必要に応じて金融機関から資金調達することとしております。

なお、当連結会計年度末における借入金及びリース債務を含む有利子負債の残高は210百万円となっております。また、当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は7,415百万円となっております。

③経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりであります。

④経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは事業規模の拡大を目指しつつ、独自の営業網や転職希望登録者の獲得ノウハウ等、グループ内の事業資産の有効活用により、利益重視の体制を整える方針であります。新型コロナウイルス感染拡大に伴う景気悪化の影響を受けて短期的には業績縮小も想定されますが、引き続き事業規模の拡大及び利益重視の体制の実現に取り組むことで、早期に業績回復し、安定的な成長と堅実な財務体質の構築に向け、中長期的に売上高経常利益率及び自己資本当期純利益率(ROE)を高めていくことを目指してまいります。

当連結会計年度における売上高経常利益率は14.3%(前年同期比0.4ポイント低下)であり、自己資本当期純利益率は23.3%(前年同期比2.4ポイント低下)でありました。引き続き当該指標について、改善されるよう取り組んでまいります。



⑤重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項については、過去の実績や当社グループを取り巻く環境等に応じて合理的と考えられる方法により計上しておりますが、見積り特有の不確実性があるために実際の結果は異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項」に記載のとおりであります。特に下記の会計方針が連結財務諸表作成における重要な見積りの判断等に影響を及ぼすと考えております。

なお、現時点で新型コロナウイルス感染症の終息時期などを想定することは困難であるものの、当社グループの事業計画の進捗状況等の情報に基づき検討し、同感染症による当社グループの通期業績への影響は限定的であると仮定して当連結会計年度(2020年3月期)の会計上の見積りを行っております。

a. 繰延税金資産

当社グループの連結財務諸表に計上されている資産及び負債の金額と課税所得計算上の資産及び負債の金額との間に生じる一時差異に係る税効果については、当該差異の解消時に適用される法定実効税率を使用して、繰延税金資産を計上しております。将来の税金の回収可能予想額は、当社グループの将来の課税所得の見込額に基づき算出されておりますが、将来の課税見込額の変動により、繰延税金資産が変動する可能性があります。

b. 固定資産の減損

当社グループは、固定資産のうち減損の兆候がある資産又は資産グループについて、当該資産又は資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定に当たっては慎重に検討しておりますが、事業計画や市場環境の変化により、その見積り額の前提とした条件や仮定に変更が生じた場合に、減損処理が必要となる可能性があります。

#### 4 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において締結した経営上の重要な契約等は、下記のとおりであります。

##### (1) 株式会社リクルートとの契約

当社はリクルーティング事業に関し、2019年4月1日付で株式会社リクルートとの間で下記の契約を締結しております。

会社名	契約内容	契約期間
株式会社リクルート	当社が顧客に対し広告掲載の募集、広告出稿に関するコンサルティング、依頼された広告掲載の原稿作成等の業務を行い、同社に対して広告取次ぎを行い、当社が当社に対して一定の代理店手数料（代理店形態）、ないし販売委託手数料（販売委託形態）を支払う。	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日

(注) 1. 当該契約については1年毎の更新であります。代理店形態は1980年9月より継続されており、販売委託形態は2001年6月より継続されております。

2. 当該契約については、2020年4月1日付で新たに契約を締結しております。

##### (2) 株式会社クロノスの株式の取得

当社は、2019年7月11日開催の取締役会において、株式会社クロノスの株式の取得（子会社化）に関する株式譲渡契約締結について決議し、2019年8月1日付で株式譲渡契約を締結いたしました。詳細は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

#### 5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当連結会計年度における当社グループの設備投資の総額は460,450千円であり、主なものはソフトウェアの取得等226,258千円（人材サービス事業）であります。なお、上記取得費用のうち71,352千円をソフトウェア仮勘定として前連結会計年度において計上しております。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループの主たる業務は、「第一部 企業情報 第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ③生産、受注及び販売の実績」に記載のとおり製造会社のような生産設備は保有しておりません。

従って、事業所及びそれに伴う附属設備並びに従業員への福利厚生施設が主要な設備となります。

当連結会計年度末における状況は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

(2020年3月31日現在)

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額（千円）					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 <面積㎡>	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	リース資産	合計	
本社 (大阪府北区)	人材サービス事業 リクルーティング事業 全社	営業・事務 施設	35,790 <1,805>	—	3,867	999	40,657	217 [25]
東京本社 (東京都港区)	人材サービス事業 全社	営業・事務 施設	91,675 <3,094>	—	35,610	—	127,286	335 [3]
東京事業所 (東京都港区)	リクルーティング事業	営業・事務 施設	23,261 <814>	—	1,999	—	25,261	75 [24]
名古屋支店 (名古屋市中区)	人材サービス事業 リクルーティング事業	営業・事務 施設	17,092 <575>	—	10,072	—	27,164	51 [8]
社員寮・福利厚生 施設等 (大阪府豊中市他)	全社	独身寮他	23,883	100,080 (1,015)	482	—	124,445	—

(注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。

2. 上記建物のうち営業・事務施設は賃借中であり、< >内はその面積であります。

各施設の年間賃借料は次のとおりです。

本社	139,992千円
東京本社	281,247千円
東京事業所	67,981千円
名古屋支店	30,702千円

3. 上記従業員数の [ ] は、臨時従業員を外書しております。

##### (2) 国内子会社

(2020年3月31日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額（千円）					従業員数 (人)
				建物及び 構築物	土地 (面積㎡)	工具、器具 及び備品	リース 資産	合計	
㈱カラフルカンパニ ー	本社 (石川県金沢市)	情報出版事業	営業・事務 施設	127,116	130,169 (1,202)	12,186	—	269,472	94 [17]
	社員寮 (石川県金沢市)	情報出版事業	独身寮	78,304	46,620 (444)	—	—	124,924	—

(注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。

2. 上記従業員数の [ ] は、臨時従業員を外書しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

#### (1) 重要な設備の新設等

当社グループの設備投資については、業績予測、市場動向等を総合的に勘案して決定しております。

設備計画は原則的に当社グループ各社が個別に策定しておりますが、その実施にあたっては提出会社でのグループ経営戦略会議等でグループCEOを中心に協議、調整されております。

なお、当連結会計年度末現在、重要な設備の新設は予定しておりません。

#### (2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

##### ②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	19,098,576	19,098,576	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	19,098,576	19,098,576	—	—

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### ②【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### ③【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2007年4月1日～ 2008年3月31日(注)	12,000	19,098,576	528	351,317	516	271,628

(注) 新株予約権の行使による増加

#### (5)【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	22	22	54	84	4	5,120	5,306	—
所有株式数(単元)	—	33,419	3,072	58,015	19,338	22	77,085	190,951	3,476
所有株式数の割合(%)	—	17.50	1.61	30.38	10.13	0.01	40.37	100	—

(注) 自己株式241,173株は、「個人その他」に2,411単元及び「単元未満株式の状況」に73株を含めて記載しております。

## (6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式（自己株式を除く。）の総数に対する所有株式数の割合（%）
有限会社アトムプランニング	大阪府豊中市本町3-4-22	5,088,416	26.98
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2-11-3	923,300	4.89
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1-8-11	655,000	3.47
和納 勉	大阪府豊中市	562,752	2.98
中島 宣明	大阪市北区	556,804	2.95
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	378,000	2.00
クイック従業員持株会	大阪市北区小松原町2-4	312,412	1.65
林 城	東京都杉並区	287,200	1.52
株式会社リクルート	東京都中央区銀座8-4-17	280,000	1.48
資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）	東京都中央区晴海1-8-12	277,500	1.47
計	—	9,321,384	49.43

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 241,100	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 18,854,000	188,540	—
単元未満株式	普通株式 3,476	—	—
発行済株式総数	19,098,576	—	—
総株主の議決権	—	188,540	—

## ② 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
株式会社クイック	大阪市北区小松原町2番4号	241,100	—	241,100	1.26
計	—	241,100	—	241,100	1.26

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

- (1) 【株主総会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (2) 【取締役会決議による取得の状況】  
該当事項はありません。
- (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】  
該当事項はありません。
- (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 ( — )	—	—	—	—
保有自己株式数	241,173	—	241,173	—

- (注) 1. 当期間における処理自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。
2. 当期間における保有自己株式数には、2020年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と位置付け、持続的な成長と企業価値の向上に努めております。

剰余金の配当につきましては、財務体質の強化や今後の事業展開等を考慮した上で、親会社株主に帰属する当期純利益の40%を配当性向の目処とすることを基本方針としております。

また、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

以上の方針に基づき、当事業年度の配当につきましては、中間配当金を1株当たり22円、期末配当金を1株当たり23円とし、年間配当金は1株当たり45円といたしました。

内部留保資金の用途については、将来の積極的な事業展開に向けた経営基盤の強化を図るため、人員の拡充・定着及び設備投資等に備える予定であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

第40期の中間配当についての取締役会決議は2019年10月31日に行っております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2019年10月31日 取締役会決議	414,862	22.00
2020年6月26日 定時株主総会決議	433,720	23.00

## 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

#### ① コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、真摯な企業努力により、ステークホルダーと良好な関係を構築・維持し、「持続的な企業価値の向上」を図りたいと考えています。そして、この考えに基づき事業展開することで、ステークホルダーの信頼と期待に応え、経営理念である「関わった人全てをハッピーに」を実現したいと考えております。

「持続的な企業価値の向上」を達成するためには、経営の透明性と効率性の確保、経営環境の変化に迅速かつ的確に対応できる経営体制の確立、リスク管理をはじめとする内部統制機能の充実、ステークホルダーに対する説明責任の履行等が必要であり、これらが経営上の重要課題であると認識しております。これらの経営課題のうち、経営の透明性と効率性の確保は、コーポレート・ガバナンスの基本と捉え、以下に記載する体制を構築して、コーポレート・ガバナンスの強化・充実を図っております。また、ステークホルダーに対する説明責任の履行についても、コーポレート・ガバナンス上の重要課題と認識しており、企業・会社情報及び経営状況・経営方針や事業活動などの経営情報の適時適切な開示に努めております。

#### ② 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

##### イ. 企業統治の体制の概要

当社の取締役会については、取締役の数は定款で12名以内と定めており、社外取締役2名（木村昭氏及び中居成子氏）と社内取締役7名（和納勉氏（議長）、川口一郎氏、中島宣明氏、中井義貴氏、横田勇夫氏、平田安彦氏及び林城氏）の合計9名で構成されており、代表取締役会長である和納勉氏が議長を務めることとしております。また、社外取締役2名は、豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社と利害関係がなく、独立性が確保されております。取締役会は毎月の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、スピーディーに重要事項を討議し、意思決定を行うとともに、適切に取締役の職務執行を監督・監視しております。

業務執行については、迅速かつ柔軟な業務執行体制を構築するため、執行役員制度を導入し、取締役、執行役員を主たるメンバーとして毎月グループ経営戦略会議を開催しております。グループ経営戦略会議では、業務執行状況と経営方針等の情報共有を図っておりますが、業務執行の健全性確保についても検証または検討されております。

当社は監査役会設置会社であり、監査役会は監査役3名（河野俊博氏、村尾考英氏及び齊藤誠氏）で構成されており、常勤監査役である河野俊博氏が議長を務めることとしております。なお、監査役3名は全て社外監査役であります。当該監査役（社外監査役）は、総務・人事や経理・税務の専門知識または豊富な業界経験と幅広い見識を有しており、当社と利害関係はなく、独立性が確保されております。各監査役は取締役会をはじめ重要な会議に出席するほか、業務執行状況の調査等を通じ、取締役の職務執行及びグループの各事業活動が法令、定款及び社内規程等に適合しているか、監査しております。

会計監査人は、EY新日本有限責任監査法人（業務執行社員は、廣田壽俊氏及び谷間薫氏）と監査契約を結んでおり、会社法及び金融商品取引法に基づき、当社グループ全体を対象に、期末監査に偏ることなく、期中を通じて会計監査が実施されております。

内部監査については、代表取締役直轄の内部監査室がグループ全体を対象に業務執行の適正性を監査し、結果を代表取締役に報告しております。

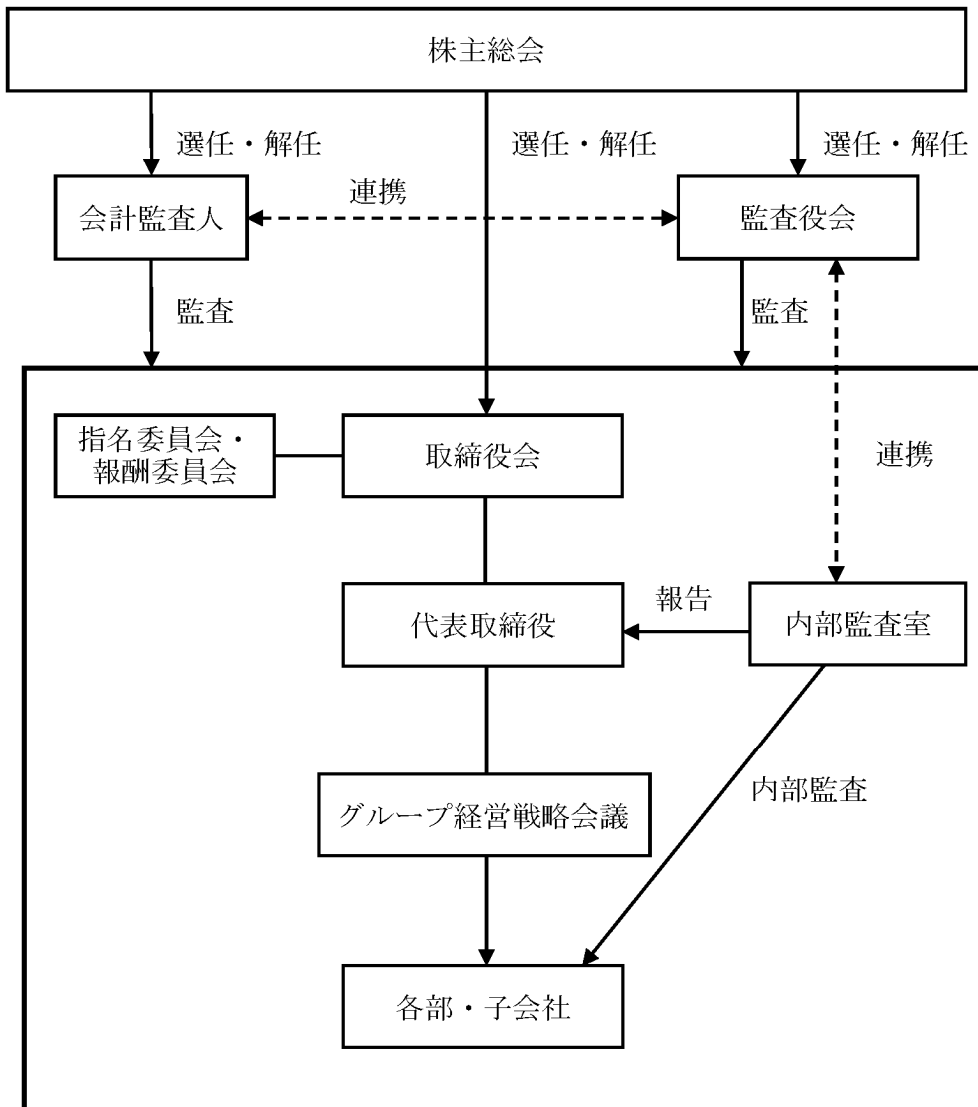
このような監査体制のもと、監査役は会計監査人及び内部監査部門と定期的にミーティングを行い、監査計画及び監査結果等について情報交換ならびに意見交換を行うなど連携を図り、効率的な監査を実施することで、監査役監査の実効性を確保しております。

なお、当社は、社外取締役（2名）及び社外監査役（3名）を独立役員（一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役または社外監査役）に指定し、独立役員届出書を東京証券取引所に提出しております。

また、当社は任意の諮問委員会として、社内取締役1名（代表取締役会長 和納勉氏（委員長））と社外取締役2名（木村昭氏及び中居成子氏）を構成員とする指名委員会及び報酬委員会を設置しており、経営陣幹部・取締役の指名及び報酬については、客観性及び透明性を確保するため、指名委員会及び報酬委員会においてその妥当性について評価、検討を行ったうえで、取締役会において審議のうえ決定することとしております。



業務執行、監査及び内部統制の仕組みは下記のとおりであります。



ロ. 企業統治の体制を採用する理由

当社は、監査役会設置会社形態を基礎として、独立性のある社外取締役・社外監査役の選任及び執行役員制度の導入等により、取締役会における適切な意思決定、経営監督機能の向上、及び業務執行の機能強化・迅速化を図り、コーポレート・ガバナンス体制の強化及び経営の効率化を推進しております。

③ 企業統治に関するその他の事項

イ. 内部統制システムの整備の状況（子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況を含む）

1. 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - ・当社の役員及び使用人が、高い倫理観をもって企業活動を推進し、企業の社会的責任を遂行するにあたり遵守すべき行動原則を定めたグループ企業行動憲章及び企業行動基準を制定し、その周知徹底を図ります。
  - ・取締役は、取締役会の一員として他の取締役の職務執行を相互に監視・監督しますが、併せて社外取締役を継続して設置し、外部の見識を採り入れた議論を行うことにより、取締役の職務執行の相互監視・監督機能の維持、向上を図り、適法性を確保します。
  - ・監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準に基づき、取締役会への出席、業務執行状況の調査等を通じ、取締役の職務執行が法令、定款及び社内規程等に適合しているか、監査を行います。
  - ・コンプライアンス体制の確立を図るため、社内規程を役員及び使用人が常時閲覧可能な状態に置くとともに、コンプライアンス担当部署は、各部門が適正な業務運営にあたるよう指導及び助言を行います。
  - ・内部監査室は、内部監査規程に基づき、各部門の業務全般に係る統制状況等の監査を定期的実施し、代表取締役及び監査役に報告を行い、是正・改善の必要がある場合は、その対策を講じるように指導を行います。

- ・反社会的勢力に対しては、毅然とした態度で対応し一切の関係を遮断することを基本方針とし、グループ企業行動憲章及び企業行動基準により社内周知徹底を図ります。
- 2. 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
当社は、法令、社内規程に基づき、重要な会議の議事録等、取締役の職務執行に係る情報は遅滞なく文書化し、情報漏洩防止にも留意の上、適正に保存及び管理を行います。
- 3. 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
当社は、当社に対して、直接または間接に経済的損失を及ぼす可能性、事業の継続を中断、停止させる可能性及び信用を毀損し、企業イメージを失墜させる可能性のあるリスクを洗い出し、定期的に分析と見直しを行うことにより、リスク管理体制を構築します。
- 4. 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
当社は、毎月の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法定決議事項のほか重要な経営方針、重要な業務執行に関する事項の決定を行います。取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、業務分掌規程及び職務権限規程に則り、取締役の業務執行が効率的に行われる仕組みを確保します。また、業務執行の迅速化と柔軟な業務執行体制を構築するため、執行役員制度を導入するとともに、経営の意思疎通を図るために、取締役、執行役員を主たるメンバーとして毎月グループ経営戦略会議を開催します。
- 5. 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
  - ・子会社の取締役等の職務の執行に係る事項の当社への報告に関する体制
    - a. 当社グループ会社に対する管理については、関係会社管理規程に基づき、注意深く管理を行い、グループ会社の業務の適正化のために対処すべき事項については、当社の所管部門が速やかに必要な対策、支援を講じます。
    - b. 当社の国内子会社については、当社の取締役が子会社の業務執行取締役を兼務し、職務の執行を行っています。また、当社の海外子会社については、当社のグループCEO及び海外事業担当取締役が定期的に職務の執行状況の報告を受け、また必要に応じて海外子会社を巡回するなどして職務の執行状況の監督に努めています。これらの当社の取締役より、子会社の職務の執行状況及びその他経営上の重要事項については、毎月の当社の定時取締役会及びグループ経営戦略会議において報告を行います。
  - ・子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
当社グループ会社においては、原則として、当該グループ会社に対して、直接または間接に経済的損失を及ぼす可能性、事業の継続を中断、停止させる可能性及び信用を毀損し、企業イメージを失墜させる可能性のあるリスクを洗い出し、定期的に分析と見直しを行うことにより、リスク管理体制を構築します。なお、これらグループ会社のリスク情報については、必要に応じて当社の取締役より、当社の取締役会及びグループ経営戦略会議において報告を行います。
  - ・子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
    - a. 当社及び当社グループ会社取締役は、当社グループ全体の最適を考慮した意思決定を行います。
    - b. 当社及び当社グループ会社は、グループ各社の事業遂行のためのグループ年度計画及び複数事業年度を期間とする中期経営計画を策定し、連結ベースでの目標数値を設定します。
    - c. 当社グループ会社の事業内容及び規模等に応じ、組織、指揮命令系統及び権限の行使等において適正な社内管理体制を構築し、取締役等の業務執行が効率的に行われる仕組みを確保します。
  - ・子会社の取締役等及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
    - a. グループ企業行動憲章及び企業行動基準は、当社グループ会社にも適用されており、その周知徹底を図ります。
    - b. 当社のコンプライアンス担当部署は、当社グループのコンプライアンス体制の総合的な確立を目指し、当社グループ会社についても適正な業務運営にあたるよう補佐を行います。
    - c. 当社の監査役は、監査役会が定めた監査役監査基準に基づき、当社グループ会社の往査を実施します。
    - d. 当社の内部監査室は、内部監査規程に基づき、当社グループ会社の業務全般に係る統制状況等の監査を定期的に実施し、グループCEO及び当社の監査役に報告を行い、是正・改善の必要がある場合は、その対策を講じるように指導を行います。
- 6. 当社の監査役を補助すべき使用人に関する事項  
当社の監査役を補助すべき使用人は、必要な知識・能力を備えた総務人事部に所属する使用人とし、監査役は必要に応じて同部に所属する使用人に対し監査業務に必要な事項を命令することができることとします。また、監査役より監査業務に必要な命令を受けて監査業務を行う使用人は、その命令の範囲に属する業務に関して、取締役の指揮命令を受けないこととします。  
なお、当該使用人の人事異動、人事考課及び懲戒処分は、監査役会の事前の同意を得ることとします。

#### 7. 当社の監査役への報告に関する体制

- ・当社及び当社グループ会社の役員及び使用人等は、重大な法令、定款違反及び不正行為の事実、または会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を知ったときは、速やかに当社の監査役に報告します。
- ・当社グループ会社の監査役は、当該グループ会社の監査役監査の結果等について、当社の監査役に報告し、情報の共有を図ります。

#### 8. 当社の監査役へ報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、当社の監査役に報告を行った当社及び当社グループ会社の役員及び使用人等に対し、当該報告をしたことを理由として、不利な取扱いを行うことを禁止します。

#### 9. 当社の監査役職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項

- ・当社は、監査役職務の執行について必要な費用等を支弁するため、毎年、一定額の予算を設定します。
- ・当社は、監査役がその職務執行について、当社に対し、会社法第388条に基づく費用の前払い等を請求したときは、当該監査役職務の執行に必要でない認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理します。

#### 10. その他当社の監査役監査が実効的に行われることを確保するための体制

当社の監査役は、取締役会、グループ経営戦略会議など重要会議への出席、代表取締役との定期意見交換、取締役、執行役員に対するヒアリング、内部監査の結果、起案書、報告書の閲覧などを通して会社の状況を把握します。また、当社の監査役は、取締役、会計監査人及び内部監査室と定期的に意見交換を行い、監査役の監査の実効性を確保します。

#### ロ. リスク管理体制の整備の状況

当社のリスク管理体制として、まず、事業計画を阻む恐れのある経営リスクについては、毎月開催されている定時取締役会のほか、必要に応じて開催されている臨時取締役会において討議を行っております。また、取締役、執行役員を主たるメンバーとしてグループ経営戦略会議を毎月開催し、経営の意思疎通を図るよう十分な討議を行っております。

次に、法令に抵触するようなリーガル・リスクについては、法務部を中心に外部の顧問弁護士と連携を図りながら法令等の遵守に関する事項を審議しております。

また、海外の子会社における当該各国の経済的・社会的及び政治的リスクについては、定期的に監査役による子会社調査及び会計監査人による会計監査が行われており、相互連携により現地の状況を把握するとともに、これらのリスクを未然にあるいは最小限に抑えることができるよう努めております。

#### ハ. 責任限定契約の内容の概要

当社と各取締役（業務執行取締役等である者を除く。）及び各監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該取締役（業務執行取締役等である者を除く。）または監査役が責任の原因となった職務遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

#### ニ. 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

#### ホ. 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

へ. 取締役会にて決議できる株主総会決議事項

1. 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、機動的な資本政策等の遂行を可能とするため、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

2. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、毎年9月30日を基準日として、取締役会の決議によって会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当）をすることができる旨を定款に定めております。

3. 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役及び監査役（取締役及び監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

ト. 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## (2) 【役員の状況】

## ① 役員一覧

男性11名 女性1名 (役員のうち女性の比率8.3%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 会長 グループCEO	和納 勉	1949年5月7日生	1976年5月 ㈱日本リクルートセンター(現㈱リクルートホールディングス)入社 1978年6月 ㈱就職情報センター(現㈱リクルートキャリア)入社 1980年9月 ㈱クイックプランニング(現㈱クイック)設立と同時に代表取締役社長就任 1983年2月 ㈱クイック(現㈱アトムプランニング)設立と同時に代表取締役社長就任(現任) 2000年4月 ㈱アイ・キュー(現㈱HRビジョン)代表取締役会長就任 2003年2月 ㈱ケー・シー・シー(現㈱カラフルカンパニー)代表取締役社長就任 2003年2月 ㈱キャリアシステム代表取締役社長就任 2003年6月 上海クイックマイツ有限公司(現上海クイック有限公司)董事長就任(現任) 2005年4月 当社グループCEO就任(現任) 2010年4月 ㈱ケー・シー・シー(現㈱カラフルカンパニー)代表取締役会長就任 2019年6月 当社代表取締役会長就任(現任) 2019年11月 上海クイック人材サービス有限公司董事長就任(現任)	(注)4	562,752
代表取締役 社長 人材紹介事業本部長	川口 一郎	1956年10月13日生	1979年4月 ㈱日本リクルートセンター(現㈱リクルートホールディングス)入社 1999年6月 トランス・コスモス㈱ 常務取締役就任 2005年9月 当社入社 人材紹介営業本部長兼関西営業部長 2006年4月 人材紹介事業本部長兼関西営業部長 2008年8月 人材紹介事業本部長兼人材紹介営業部長 2010年4月 人材紹介事業本部長兼西日本営業部長 2011年4月 人材紹介事業本部長(現任) 2016年6月 当社取締役執行役員就任 2017年6月 当社常務取締役執行役員就任 2019年6月 当社代表取締役社長就任(現任) 2020年4月 ㈱キャリアシステム代表取締役社長就任(現任)	(注)4	45,400
取締役 副会長	中島 宣明	1952年10月19日生	1979年6月 ㈱就職情報センター(現㈱リクルートキャリア)入社 1980年9月 当社入社 営業部長 1981年6月 取締役就任 1998年5月 専務取締役就任 リクルーティング広告事業本部長 2002年4月 営業本部長 2005年4月 ㈱クイック・エアサポート代表取締役社長就任 2006年10月 当社営業統括役員 2011年4月 当社取締役副社長就任 2013年6月 ㈱キャリアシステム代表取締役社長就任 2019年6月 当社取締役副会長就任(現任)	(注)4	556,804

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役執行役員 リクルーティング事業本部長 兼東京営業部長	中井 義貴	1962年10月14日生	1981年4月 東海興業㈱入社 1989年3月 当社入社 1998年4月 名古屋リクルーティング営業部長 2002年4月 執行役員就任 東京リクルーティ ング営業部長 2005年6月 取締役就任 2006年10月 リクルーティング東日本事業本部長 兼人材総合営業部長 2010年4月 ㈱ケー・シー・シー (現㈱カラフル カンパニー) 取締役就任 2011年4月 当社取締役執行役員就任 (現任) 2011年4月 ㈱ケー・シー・シー (現㈱カラフル カンパニー) 代表取締役社長就任 (現任) 2019年4月 リクルーティング事業本部長兼東京 営業部長 (現任)	(注)4	152,900
取締役執行役員 グローバル事業本部長	横田 勇夫	1962年1月3日生	1986年4月 日新航空サービス㈱入社 1986年5月 ㈱リクルート (現㈱リクルートホー ルディングス) 入社 2000年4月 ㈱関西リクルート企画 (現㈱リクル ートジョブズ) 入社 京都支社長 2003年7月 当社入社 2003年10月 大阪リクルーティング営業部長 2004年4月 執行役員就任 2006年6月 取締役就任 2006年10月 リクルーティング西日本事業本部長 兼大阪営業部長 2008年1月 海外事業担当 2011年4月 当社取締役執行役員 (現任) リク ルーティング事業本部長兼海外事業 担当 2012年4月 グローバル事業推進部長 2017年4月 ㈱クイック・グローバル代表取締役 社長就任 2019年4月 QUICK USA, Inc. 代表取締役社長就任 (現任) 2020年4月 グローバル事業本部長 (現任)	(注)4	77,800
取締役執行役員 管理本部長兼経理部長	平田 安彦	1960年9月19日生	1983年4月 当社入社 1994年10月 大阪リクルーティング営業部長 2002年4月 執行役員就任 2003年7月 関連事業室長 2005年6月 取締役就任 2007年1月 ㈱ケー・シー・シー (現㈱カラフル カンパニー) 取締役副社長就任 2010年4月 ㈱ケー・シー・シー (現㈱カラフル カンパニー) 取締役社長就任 2011年4月 当社取締役執行役員 (現任) 管理 本部長兼経理部長兼経営戦略室長 2013年4月 管理本部長兼経理部長 (現任)	(注)4	233,000
取締役執行役員	林 城	1962年7月5日生	1985年4月 当社入社 1994年10月 東京リクルーティング営業部長 2000年4月 ㈱アイ・キュー (現㈱HRビジョ ン) 代表取締役社長就任 (現任) 2005年4月 当社執行役員就任 2006年6月 当社取締役就任 2011年4月 当社取締役執行役員就任 (現任)	(注)4	287,200
取締役	木村 昭	1943年9月3日生	1966年7月 堺興行㈱代表取締役就任 1969年10月 大福機工㈱ (現㈱ダイフク) 入社 1979年10月 ㈱オーピーシステム 取締役就任 1986年9月 同社専務取締役就任 2003年4月 同社取締役社長就任 2004年4月 同社代表取締役社長就任 2004年7月 上海欧比愛思晟峰軟件有限公司董事 長就任 2009年6月 当社取締役就任 (現任)	(注)4	48,220

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	中居 成子	1962年6月26日生	1986年4月 当社入社 1987年5月 学校法人国際学園大阪外語専門学校 入社 1996年2月 ㈱ハート・アンド・キャリア設立 代表取締役就任 2011年5月 ㈱シェルメール設立 代表取締役就 任(現任) 2016年6月 当社取締役就任(現任)	(注)4	—
常勤監査役	河野 俊博	1949年5月3日生	1972年4月 藤本産業㈱(現住友商事ケミカル ㈱)入社 1980年10月 ダンコ㈱(現リシュモンジャパン ㈱)入社 1993年10月 ダンヒルグループジャパン㈱(現リ シュモンジャパン㈱)オーガナイゼ ーション&ヒューマンリソース部ジ ェネラルマネージャー 2012年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
監査役	村尾 考英	1955年2月17日生	1977年11月 拓生警備保障㈱入社 1981年1月 ㈱日本リクルートセンター(現㈱リ クルートホールディングス)入社 1999年6月 トランス・コスモス㈱ 常務取締役 就任 2005年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
監査役	斉藤 誠	1965年4月2日生	1990年10月 太田昭和監査法人(現EY新日本有限 責任監査法人)入所 2001年10月 斉藤公認会計士事務所開設 所長 (現任) 2007年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
計					1,964,076

- (注) 1. 取締役木村昭及び中居成子は、社外取締役であります。
2. 監査役河野俊博、村尾考英及び斉藤誠は、社外監査役であります。
3. 当社では、業務執行の迅速化と柔軟な業務執行体制を構築するため、執行役員制度を導入しております。執行役員は11名で4名は取締役兼任であり、その他は、小原努(Web事業企画開発室長)、来島健太(人材紹介事業本部営業一部長)、村中謙太郎(人材紹介事業本部営業二部長)、結城賢治(人材紹介事業本部営業三部長)、柴崎雄貴(人材紹介事業本部営業一部付部長)、古賀陽介(リクルーティング事業本部大阪営業部長)、岩元節男(管理本部東京統括部長)であります。
4. 2019年6月20日開催の定時株主総会の終結の時から2年間あります。
5. 2019年6月20日開催の定時株主総会の終結の時から4年間あります。

## ② 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

当事業年度末において、社外取締役木村昭氏が当社株式48,220株を所有しております。また、社外取締役中居成子氏は、1986年4月から1987年4月まで当社の使用人であったことがあります。当社の使用人でなくなってから33年を経過しております。以上のほかは、当社と各社外取締役及び各社外監査役の間には、人的関係、資本的關係又は取引関係その他の利害関係はございません。

また、各社外取締役及び各社外監査役において、過去に当社以外に職歴のあった、もしくは現在兼職している会社等との間にも特別な利害関係はございません。

社外取締役木村昭氏は、従前、事業法人において代表取締役を務め、また、中国の現地法人で董事長を務めるなど、豊富な事業経験と幅広い見識を有しており、当社取締役会の適切な意思決定、当社経営の監督に貢献いただいております。

社外取締役中居成子氏は、他の人材ビジネス業の会社の経営者として、主に人材の育成及びキャリア開発等、企業研修等の分野において豊富な事業経験と幅広い見識を有しており、当社取締役会の適切な意思決定、当社経営の監督に貢献いただいております。

社外監査役河野俊博氏は、グローバル企業において、長年、総務・人事業務を担当し、豊富な実務経験と幅広い見識を有しており、経営全般に対する監視や適切な助言及び中立的・客観的な視点からの監査により、当社経営の健全性確保に貢献いただいております。

社外監査役村尾考英氏は、人材ビジネス業における豊富な経験と幅広い見識を有しており、経営全般に対する監視や適切な助言及び中立的・客観的な視点からの監査により、当社経営の健全性確保に貢献いただいております。

社外監査役齊藤誠氏は、公認会計士であり、財務、会計、監査等に関する幅広い業務知識と実務経験を有しており、経営全般に対する監視や適切な助言及び中立的・客観的な視点からの監査により、当社経営の健全性確保に貢献いただいております。

各社外取締役及び各社外監査役は、社外取締役木村昭氏が当社株式を保有していること及び社外取締役中居成子氏が過去に当社の使用人であった経歴があること以外は、いずれも当社とは利害関係がなく、一般株主と利益相反が生じる恐れがないことから、独立性が確保されているものと考えております。

社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針については特段の定めはありませんが、選任に当たっては独立性の確保に留意し、当社と利害関係がないことを選任の方針としております。

なお、当社は、社外取締役（2名）及び社外監査役（3名）を独立役員（一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役または社外監査役）に指定し、独立役員届出書を東京証券取引所に提出しております。

## ③ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

各社外取締役及び各社外監査役は、それぞれの監督又は監査にあたり必要に応じて、内部統制部門、内部監査部門、監査役及び会計監査人と協議・報告・情報交換を行うことにより、相互連携を図っております。また、各社外取締役及び各社外監査役は、定期的開催する独立社外役員会において、それぞれの監督及び監査の視点で、相互の情報交換ならびに意見交換を行うなど連携を図り、情報と課題の共有化を図ることによって、コーポレート・ガバナンスの強化・充実を図っております。



### (3) 【監査の状況】

#### ① 監査役監査の状況

当社は監査役会設置会社であり、監査役会は監査役3名（3名全員が社外監査役）で構成されております。常勤監査役及び各監査役は、監査役会において策定した監査方針、業務分担等に基づき、監査活動を行っております。具体的な活動としては、代表取締役との間で定期的なミーティングを開催するなど事業別・部門別の現況等のヒアリングを行うほか、重要会議への出席、各支店、各部門へのヒアリング及び往査、子会社への調査及び往査を実施しております。また、会計監査人と定期的にミーティングを行い、監査計画及び監査結果等について情報交換ならびに意見交換を行うなど連携を図っております。監査役は、これらの活動を通じて経営課題の把握に努め、監査に関する重要な事項について、毎月開催する監査役会に報告し、協議を行っております。

また、常勤監査役及び監査役は内部監査室とともに、定期的に内部統制部門との間で、相互の情報交換ならびに意見交換を行うなど連携を図っており、財務報告に係る内部統制の整備及び運用が有効に機能するように、独立的な立場から監視し、必要に応じて提言を行っております。このように、監査役は、会計監査人及び内部監査部門等と連携して、監査役監査の実効性を確保しております。なお、監査役齊藤誠氏は、公認会計士の資格を有し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

当事業年度における各社外監査役の主な活動状況は次のとおりであります。

地 位	氏 名	主 な 活 動 状 況
常勤監査役 (社外監査役)	河 野 俊 博	当事業年度に開催された取締役会18回のうち18回（出席率100%）に出席し、議案の審議に必要な発言を適宜行っております。また、監査役会13回のうち13回（出席率100%）に出席し、社外での経験や専門性を活かした発言を行っております。
社外監査役	村 尾 考 英	当事業年度に開催された取締役会18回のうち17回（出席率94%）に出席し、議案の審議に必要な発言を適宜行っております。また、監査役会13回のうち13回（出席率100%）に出席し、社外での経験や専門性を活かした発言を行っております。
社外監査役	齊 藤 誠	当事業年度に開催された取締役会18回のうち17回（出席率94%）に出席し、議案の審議に必要な発言を適宜行っております。また、監査役会13回のうち13回（出席率100%）に出席し、主に公認会計士としての専門的見地から発言を行っております。

監査役会においては、監査報告書の作成、監査方針及び監査計画の策定、監査役の業務分担、会計監査人の選解任または不再任に関する事項及び会計監査人の報酬に対する同意等について、検討を行っております。

#### ② 内部監査の状況

当社の内部監査におきましては、当社及び当社グループ内における不祥事等のリスク発生を未然に防止するため、また、各部門の内部管理体制の適正性を、総合的、客観的に評価することを目的として、代表取締役直轄の内部監査室に担当者を1名配置し、業務活動の全般に関しその計画・手続きの妥当性及業務実施の有効性の確認を行っております。

内部監査室は、監査役との連携により効率的な内部監査を実施しており、抽出された課題については、相互に意見を交換しながら改善に向けた提言を行っております。また、毎月一回以上、相互の情報交換ならびに意見交換を行うなど連携を図り、情報と課題の共有化を図ることによって、監査の実効性と効率性の向上を図っております。

なお、内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係については、「(2) 役員の状況 ③社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係」に記載のとおりです。

③ 会計監査の状況

イ. 監査法人（会計監査人）の名称  
EY新日本有限責任監査法人

ロ. 継続監査期間  
21年間

ハ. 業務を執行した公認会計士  
廣田 壽俊  
谷間 薫

二. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士4名、その他11名であります。

ホ. 会計監査人の選定方針と理由

会計監査人の選定方針と理由につきましては、監査役会において策定した会計監査人の評価基準とも照らし合わせ、会計監査人の監査体制、独立性、監査品質及び監査業務の遂行状況等を総合的に判断し、再任が適切と判断いたしました。なお、監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨及びその理由を報告いたします。

ヘ. 監査役及び監査役会による会計監査人の評価

当社の監査役及び監査役会は、監査役会において策定した会計監査人の評価基準に基づき、毎年定期的に会計監査人に対して評価を行っております。この評価基準につきましては、会計監査人の監査体制、独立性、監査品質及び監査業務の遂行状況等の項目に基づき、評価を行っております。

ト. 監査法人の異動

該当事項はありません。

④ 監査報酬の内容等

イ. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	25,000	—	25,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	25,000	—	25,000	—

ロ. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬（イ. を除く）

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	—	—	—	—
連結子会社	—	—	—	—
計	—	—	—	—

ハ. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

（前連結会計年度）

該当事項はありません。

（当連結会計年度）

該当事項はありません。

ニ. 監査報酬の決定方針

該当事項はありません。

ホ. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、監査報酬の妥当性の検証にあたり、監査内容の内訳、監査対象の子会社数、監査に要する時間及び前年の監査報酬の金額等を総合的に検証した結果、妥当であると判断したためであります。

(4) 【役員の報酬等】

① 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、世間水準または当社の従業員の給与等の水準、経営状況及び各々の貢献度合いに基づき総合的に算定したうえで、取締役の報酬は報酬委員会の審議を経て、取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役の協議により決定しております。

取締役の報酬限度額は、2016年6月22日開催の第36回定時株主総会の決議により、役員賞与を含めた年額300,000千円以内（うち社外取締役分は年額30,000千円以内）、また、監査役の報酬限度額は、2017年6月22日開催の第37回定時株主総会の決議により、役員賞与を含めた年額30,000千円以内と定められております。

なお、2018年6月21日開催の第38回定時株主総会におきまして、取締役（社外取締役を除く）に対して、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、対象取締役と株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式報酬制度を新たに導入することが決議されましたが、上記の取締役の報酬限度額とは別枠で、譲渡制限付株式の付与のための報酬限度額は年額150,000千円以内（ただし、3年分累計450,000千円以内を一括して支給できるものとする。）と決議いただいております。

当社の役員報酬は、固定報酬（月額報酬）、賞与及び譲渡制限付株式報酬により構成されております。

当社は、取締役の報酬について、客観性及び透明性を確保するため、任意の諮問委員会として報酬委員会を設置しており、取締役の報酬の決定にあたっては、当該報酬委員会が、世間水準または当社の従業員の給与等の水準、経営状況及び各々の貢献度合いに基づき総合的に算定し、各取締役の報酬等の妥当性について評価、検討を行ったうえで、取締役会において審議のうえ、決定することとしております。

また、監査役の報酬については、株主総会にて決定する報酬総額の限度内で、監査役の協議により決定しております。

なお、当事業年度における当社の役員の報酬等の額の決定過程における取締役会及び報酬委員会の活動は、取締役会の開催回数は1回、報酬委員会の開催回数は1回であり、取締役の報酬等の世間水準、決定方針及び妥当性等について報酬委員会において審議を行い、同委員会の審議を経て、取締役会において決定しております。

② 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	賞与	譲渡制限付 株式報酬	
取締役 (社外取締役を除く。)	223,299	146,376	37,000	39,923	7
監査役 (社外監査役を除く。)	—	—	—	—	—
社外役員	26,628	23,628	3,000	—	5

(注) 1. 取締役の報酬限度額は、2016年6月22日開催の第36回定時株主総会において役員賞与を含めた年額300,000千円以内（うち社外取締役分は年額30,000千円以内）と決議いただいております（ただし、使用人分給与は含まない。）。

2. 監査役の報酬限度額は、2017年6月22日開催の第37回定時株主総会において役員賞与を含めた年額30,000千円以内と決議いただいております。

(5) 【株式の保有状況】

① 投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、専ら株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資株式については、純投資目的である投資株式とし、中長期的な企業価値の維持・向上及び企業間取引の維持・強化や円滑な金融取引関係の維持等を目的として保有する投資株式については、純投資目的以外の目的である投資株式と区分しております。

② 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

保有方針及び保有の合理性を検証する方法につきましては、保有目的の妥当性及び保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等の観点で検討の上、保有または縮減を決定することを基本方針としております。

また、個別銘柄の保有の適否につきましては、毎年定期的に取締役会において、個別銘柄ごとに保有目的の妥当性及び保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を精査し、保有の適否を検証することとしております。

ロ. 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額 (千円)
非上場株式	8	8,200
非上場株式以外の株式	6	918,317

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額 (千円)	株式数の増加の理由
非上場株式	—	—	—
非上場株式以外の株式	2	2,636	中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上の情報収集等や企業間取引の維持・強化のための取引先持株会等を通じた取得

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額 (千円)
非上場株式	—	—
非上場株式以外の株式	6	112,265

ハ. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数 (株)	株式数 (株)		
	貸借対照表計上額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)		
㈱リクルートホールディングス	300,000	300,000	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	無
	838,800	948,300		
フクシマガリレイ㈱(注) 3	9,666	9,333	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2 (株式数が増加した理由) 上記目的のための取得	無
	32,866	33,181		
㈱アドバンスクリエイト	11,775	34,260	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	無
	19,783	62,936		
ロングライフホールディング㈱	44,798	40,964	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2 (株式数が増加した理由) 上記目的のための取引先持株会を通じた取得	無
	12,543	15,320		
㈱CDG	8,638	32,233	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	有
	11,937	43,418		
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	5,920	5,920	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び円滑な金融取引の維持や財務関連取引における情報収集のため(定量的な保有効果) (注) 2	無
	2,385	3,256		
㈱学情	—	15,000	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	無
	—	18,480		
㈱KG情報	—	17,700	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	有
	—	7,681		
キャリアバンク㈱	—	5,500	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	有
	—	4,807		
㈱クリエアナブキ	—	7,500	(保有目的) 中長期的な企業価値の維持・向上及び事業展開上における情報収集等や企業間取引の維持・強化のため(定量的な保有効果) (注) 2	無
	—	3,225		

(注) 1. 「—」は、当該銘柄を保有していないことを示しております。

2. 特定投資株式における定量的な保有効果につきましては、記載が困難であるため記載しておりません。なお、個別銘柄の保有の適否につきましては、毎年定期的に取締役会において、個別銘柄ごとに保有目的の妥当性及び保有に伴う便益やリスクが資本コストに見合っているか等を精査し、保有の適否を検証することとしております。

3. 福島工業㈱は、2019年12月3日付でフクシマガリレイ㈱に商号変更しております。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、公益財団法人財務会計基準機構の行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,364,521	7,469,166
受取手形及び売掛金	2,061,682	2,139,732
その他	621,235	423,453
貸倒引当金	△2,010	△2,081
流動資産合計	9,045,428	10,030,271
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	※1 1,559,302	※1 1,634,193
減価償却累計額	△693,773	△754,873
建物及び構築物（純額）	865,528	879,320
車両運搬具	10,620	10,684
減価償却累計額	△4,145	△5,811
車両運搬具（純額）	6,474	4,872
工具、器具及び備品	241,698	273,954
減価償却累計額	△140,114	△174,074
工具、器具及び備品（純額）	101,584	99,880
土地	※1 276,869	※1 276,869
リース資産	18,926	15,150
減価償却累計額	△8,064	△7,789
リース資産（純額）	10,862	7,360
有形固定資産合計	1,261,318	1,268,302
無形固定資産		
ソフトウェア	151,609	367,856
ソフトウェア仮勘定	80,274	74,851
のれん	118,858	74,846
その他	10,646	10,659
無形固定資産合計	361,389	528,213
投資その他の資産		
投資有価証券	1,154,136	926,517
敷金	626,310	656,096
繰延税金資産	62,954	100,388
その他	84,605	52,152
貸倒引当金	△3,843	△3,433
投資その他の資産合計	1,924,162	1,731,721
固定資産合計	3,546,870	3,528,237
資産合計	12,592,299	13,558,509



(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	545,634	492,927
短期借入金	※1 189,902	※1 192,502
未払金	1,115,052	838,432
未払費用	520,136	562,217
リース債務	3,491	2,825
未払法人税等	646,929	552,213
未払消費税等	292,621	349,522
賞与引当金	475,298	571,211
役員賞与引当金	62,450	42,000
返金引当金	18,200	20,600
資産除去債務	679	—
その他	199,981	351,751
流動負債合計	4,070,375	3,976,203
固定負債		
リース債務	7,629	4,803
繰延税金負債	65,288	7,530
資産除去債務	86,830	98,011
その他	3,369	7,959
固定負債合計	163,117	118,304
負債合計	4,233,493	4,094,508
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	351,317	351,317
資本剰余金	391,392	391,392
利益剰余金	6,968,762	8,194,756
自己株式	△14,965	△16,005
株主資本合計	7,696,505	8,921,459
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	661,606	537,307
為替換算調整勘定	△707	1,134
その他の包括利益累計額合計	660,899	538,441
非支配株主持分	1,401	4,099
純資産合計	8,358,806	9,464,000
負債純資産合計	12,592,299	13,558,509

## ②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	19,173,142	21,035,714
売上原価	7,531,491	8,115,876
売上総利益	11,641,650	12,919,837
販売費及び一般管理費	※1 9,060,203	※1 9,989,245
営業利益	2,581,447	2,930,592
営業外収益		
受取利息	170	1,031
受取配当金	12,359	12,391
受取販売協力金	9,000	46,000
助成金収入	198,117	—
その他	22,214	27,901
営業外収益合計	241,861	87,324
営業外費用		
支払利息	1,979	2,222
為替差損	2,421	4,626
支払手数料	—	730
その他	478	383
営業外費用合計	4,879	7,962
経常利益	2,818,428	3,009,953
特別利益		
投資有価証券売却益	—	63,338
段階取得に係る差益	—	14,025
特別利益合計	—	77,363
特別損失		
固定資産除却損	※2 2,539	※2 12,965
減損損失	—	※3 60,114
特別損失合計	2,539	73,080
税金等調整前当期純利益	2,815,889	3,014,237
法人税、住民税及び事業税	936,436	968,788
法人税等調整額	△87,333	△29,466
法人税等合計	849,102	939,322
当期純利益	1,966,786	2,074,914
非支配株主に帰属する当期純利益	501	777
親会社株主に帰属する当期純利益	1,966,284	2,074,137

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
当期純利益	1,966,786	2,074,914
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	74,821	△124,299
為替換算調整勘定	△15,668	1,910
その他の包括利益合計	※1 59,152	※1 △122,388
包括利益	2,025,939	1,952,526
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,025,770	1,951,679
非支配株主に係る包括利益	168	846

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	351,317	307,998	5,723,382	△19,223	6,363,475
当期変動額					
剰余金の配当			△696,464		△696,464
親会社株主に帰属する当期純利益			1,966,284		1,966,284
自己株式の取得				△85	△85
自己株式の処分		115,427		4,342	119,770
連結範囲の変動			△24,439		△24,439
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△32,033			△32,033
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	83,393	1,245,380	4,257	1,333,030
当期末残高	351,317	391,392	6,968,762	△14,965	7,696,505

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	586,784	14,629	601,413	12,201	6,977,090
当期変動額					
剰余金の配当					△696,464
親会社株主に帰属する当期純利益					1,966,284
自己株式の取得					△85
自己株式の処分					119,770
連結範囲の変動					△24,439
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					△32,033
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	74,821	△15,336	59,485	△10,800	48,685
当期変動額合計	74,821	△15,336	59,485	△10,800	1,381,716
当期末残高	661,606	△707	660,899	1,401	8,358,806

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	351,317	391,392	6,968,762	△14,965	7,696,505
当期変動額					
剰余金の配当			△848,143		△848,143
親会社株主に帰属する当期純利益			2,074,137		2,074,137
自己株式の取得				△1,040	△1,040
自己株式の処分					—
連結範囲の変動					—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	1,225,993	△1,040	1,224,953
当期末残高	351,317	391,392	8,194,756	△16,005	8,921,459

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	661,606	△707	660,899	1,401	8,358,806
当期変動額					
剰余金の配当					△848,143
親会社株主に帰属する当期純利益					2,074,137
自己株式の取得					△1,040
自己株式の処分					—
連結範囲の変動					—
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△124,299	1,841	△122,457	2,698	△119,759
当期変動額合計	△124,299	1,841	△122,457	2,698	1,105,194
当期末残高	537,307	1,134	538,441	4,099	9,464,000

## ④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,815,889	3,014,237
減価償却費	169,508	179,124
減損損失	—	60,114
のれん償却額	14,614	12,929
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△6,697	△340
賞与引当金の増減額 (△は減少)	115,268	82,888
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	62,450	△20,450
返金引当金の増減額 (△は減少)	1,100	2,400
受取利息及び受取配当金	△12,529	△13,422
支払利息	1,979	2,222
固定資産除却損	2,539	12,965
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△63,338
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	△14,025
売上債権の増減額 (△は増加)	△42,280	147,293
仕入債務の増減額 (△は減少)	△100,294	△39,686
敷金及び保証金の増減額 (△は増加)	△115,463	△13,225
未払消費税等の増減額 (△は減少)	58,496	44,986
その他	870	148,337
小計	2,965,452	3,543,011
利息及び配当金の受取額	12,529	13,422
利息の支払額	△1,977	△2,213
法人税等の支払額	△621,678	△1,090,516
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,354,325	2,463,704
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	—	△23,883
有形固定資産の取得による支出	△202,646	△261,138
無形固定資産の取得による支出	△123,937	△284,953
投資有価証券の取得による支出	△5,595	△5,686
投資有価証券の売却による収入	—	112,265
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	※2 75,900
その他	—	△5,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△332,179	△392,496
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,602	2,600
長期借入金の返済による支出	—	△141,645
リース債務の返済による支出	△10,172	△3,810
自己株式の取得による支出	△85	—
配当金の支払額	△695,526	△847,399
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△42,062	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△746,245	△990,254
現金及び現金同等物に係る換算差額	△7,386	△183
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,268,514	1,080,769
現金及び現金同等物の期首残高	5,014,883	6,334,521
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	51,123	—
現金及び現金同等物の期末残高	※1 6,334,521	※1 7,415,291

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 14社

(株)アイ・キュー

(株)カラフルカンパニー

(株)キャリアシステム

(株)ワークプロジェクト

(株)クイック・グローバル

(株)クロノス

QUICK USA, Inc.

上海クイック有限公司

QUICK GLOBAL MEXICO, S. A. DE C. V.

Centre People Appointments Ltd

QUICK VIETNAM CO., LTD.

上海クイック人材サービス有限公司

QHR Holdings Co., Ltd.

QHR Recruitment Co., Ltd.

上記のうち、当連結会計年度より、株式取得に伴い、(株)クロノスを連結の範囲に含めております。また、新たに上海クイック人材サービス有限公司、QHR Holdings Co., Ltd.、QHR Recruitment Co., Ltd. を設立したため、連結の範囲に含めております。

(株)アイ・キューは、2020年4月1日付で(株)HRビジョンに商号を変更しております。

(株)クイック・グローバルは、2020年4月1日付で当社を存続会社として吸収合併されております。

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用会社はありません。

### 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、QUICK USA, Inc.、上海クイック有限公司、QUICK GLOBAL MEXICO, S. A. DE C. V.、Centre People Appointments Ltd、QUICK VIETNAM CO., LTD.、上海クイック人材サービス有限公司、QHR Holdings Co., Ltd.及びQHR Recruitment Co., Ltd.の決算日は12月末日であります。

連結財務諸表の作成に当たっては、決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計方針に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

##### ①有形固定資産（リース資産を除く）

当社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし、建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8年～65年

器具及び備品 4年～15年

- ②無形固定資産（リース資産を除く）  
定額法を採用しております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（2年～5年）に基づいております。
- ③リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ①貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- ②賞与引当金  
従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ③役員賞与引当金  
役員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
- ④返金引当金  
紹介手数料に対する将来の返金に備えるため、売上額に返金実績率を乗じた金額を計上しております。
- (4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。
- (5) のれんの償却方法及び償却期間  
のれんの償却については、5年間又は10年間で均等償却しております。
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲  
手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価格の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資からなっております。
- (7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項  
消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。



(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日 企業会計基準委員会)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会 (IASB) 及び米国財務会計基準審議会 (FASB) が、公正価値測定についてほぼ同じ内容の詳細なガイダンス (国際財務報告基準 (IFRS) においてはIFRS第13号「公正価値測定」、米国会計基準においてはAccounting Standards CodificationのTopic 820「公正価値測定」) を定めている状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、主に金融商品の時価に関するガイダンス及び開示に関して、日本基準を国際的な会計基準との整合性を図る取組みが行われ、「時価の算定に関する会計基準」等が公表されたものです。

企業会計基準委員会の時価の算定に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、統一的な算定方法を用いることにより、国内外の企業間における財務諸表の比較可能性を向上させる観点から、IFRS第13号の定めを基本的にすべて取り入れることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮し、財務諸表間の比較可能性を大きく損なわない範囲で、個別項目に対するその他の取扱いを定めることとされております。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「時価の算定に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で未定であります。

- ・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）が2003年に公表した国際会計基準（IAS）第1号「財務諸表の表示」（以下「IAS第1号」）第125項において開示が求められている「見積りの不確実性の発生要因」について、財務諸表利用者にとって有用性が高い情報として日本基準においても注記情報として開示を求めることを検討するよう要望が寄せられ、企業会計基準委員会において、会計上の見積りの開示に関する会計基準（以下「本会計基準」）が開発され、公表されたものです。

企業会計基準委員会の本会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、個々の注記を拡充するのではなく、原則（開示目的）を示したうえで、具体的な開示内容は企業が開示目的に照らして判断することとされ、開発にあたっては、IAS第1号第125項の定めを参考とすることとしたものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用します。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 2020年3月31日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実について検討することが提言されたことを受け、企業会計基準委員会において、所要の改正を行い、会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準として公表されたものです。

なお、「関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に採用した会計処理の原則及び手続」に係る注記情報の充実を図るに際しては、関連する会計基準等の定めが明らかな場合におけるこれまでの実務に影響を及ぼさないために、企業会計原則注解（注1-2）の定めを引き継ぐこととされております。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末から適用します。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象であります。今後の広がり方や終息時期等を予測することは困難であります。当社グループでは、当連結会計年度末時点で入手可能な情報をもとに、今後2021年3月期の一定期間に渡り、当該影響が継続するとの仮定のもと、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等に関する会計上の見積りを行っております。

(連結貸借対照表関係)

※1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	152,388千円	144,132千円
土地	226,549	226,549
計	378,937	370,682

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
短期借入金	171,002千円	171,002千円
計	171,002	171,002

上記、建物及び構築物・土地に設定した担保は根抵当権であり、その極度額は670,000千円であります。

上記、建物及び構築物・土地に設定した担保は根抵当権であり、その極度額は670,000千円であります。

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給与手当	4,348,142千円	4,868,308千円
賞与引当金繰入額	440,403	518,874
役員賞与引当金繰入額	62,450	42,000
退職給付費用	95,698	105,664
貸倒引当金繰入額	1,305	210

※2 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物	793千円	4,122千円
工具、器具及び備品	0	391
ソフトウェア	1,746	8,451
計	2,539	12,965

※3 減損損失

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失(千円)
海外事業(英国)	—	のれん	60,114

当社グループは、原則として事業の区分をもとに概ね独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位によって、資産のグルーピングを行っております。

当社連結子会社のCentre People Appointments Ltdの株式取得時に発生したのれんについて、将来の回収可能性を検討し、のれんの全額の回収は困難であると認められたため、当該のれんを回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。なお、のれんに係る回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを11.0%で割引いて計算しております。

## (連結包括利益計算書関係)

## ※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	107,781千円	△115,710千円
組替調整額	—	△63,338
税効果調整前	107,781	△179,049
税効果額	△32,960	54,750
その他有価証券評価差額金	74,821	△124,299
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△15,668	1,910
その他の包括利益合計	59,152	△122,388

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	19,098	—	—	19,098
合計	19,098	—	—	19,098
自己株式				
普通株式(注)1.2.	311	0	70	241
合計	311	0	70	241

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分によるものであります。

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月21日 定時株主総会	普通株式	338,174	18.00	2018年3月31日	2018年6月22日
2018年10月31日 取締役会	普通株式	358,290	19.00	2018年9月30日	2018年12月3日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	433,720	利益剰余金	23.00	2019年3月31日	2019年6月21日

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	19,098	—	—	19,098
合計	19,098	—	—	19,098
自己株式				
普通株式（注）	241	20	—	261
合計	241	20	—	261

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加は、当社株式を保有する会社の連結子会社化によるものであります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通株式	433,720	23.00	2019年3月31日	2019年6月21日
2019年10月31日 取締役会	普通株式	414,862	22.00	2019年9月30日	2019年12月2日

（注）配当金の総額には、連結子会社が保有する親会社株式に対する配当金を含めております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
2020年6月26日 定時株主総会	普通株式	433,720	利益剰余金	23.00	2020年3月31日	2020年6月29日

（注）配当金の総額には、連結子会社が保有する親会社株式に対する配当金を含めております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金勘定	6,364,521千円	7,469,166千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△30,000	△53,875
現金及び現金同等物	6,334,521	7,415,291

※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

株式の取得により新たに株式会社クロノスを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と株式取得による収入(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	364,412千円
固定資産	46,210
のれん	27,250
流動負債	△80,459
固定負債	△147,329
段階取得に係る差益	△14,025
支配獲得時までの取得価額	△5,329
株式の追加取得価額	190,729
現金及び現金同等物	△266,629
差引：取得による収入	75,900

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

- ・有形固定資産  
電話主装置、サーバー、パソコン、複合機等(工具、器具及び備品)であります。
- ・無形固定資産  
ソフトウェアであります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内	373,563	213,183
1年超	264,169	50,986
合計	637,732	264,169

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、短期及び長期的な運転資金等については銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブ取引は、将来の金利の変動によるリスク回避を目的として行うことがあります。投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

また、投資有価証券は主として業務上の関係を有する企業の株式であり、上場株式については市場価格の変動リスクに晒されており、非上場株式については当該企業の財務状況の悪化等によるリスクを有しております。

買掛金、未払金は短期間で決済されるものであります。

借入金の使途は主として運転資金であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスクの管理

取引先に対する営業債権については、与信限度管理規程に沿ってリスク低減を図っており、各事業部門において財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を信用度の高い金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスクの管理

投資有価証券については、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っており、非上場株式については定期的に発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた社内ルールに従い、実需の範囲で資金担当部門が決裁担当者の承認を得て行うこととしております。

③資金調達に係る流動性リスクの管理

資金担当部門が資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2. 参照）。

前連結会計年度（2019年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	6,364,521	6,364,521	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,061,682	2,061,682	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	1,140,606	1,140,606	—
(4) 敷金	626,310	629,329	3,019
資産計	10,193,120	10,196,140	3,019
(1) 買掛金	545,634	545,634	—
(2) 短期借入金	189,902	189,902	—
(3) 未払金	1,115,052	1,115,052	—
(4) 未払法人税等	646,929	646,929	—
負債計	2,497,517	2,497,517	—

当連結会計年度（2020年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	7,469,166	7,469,166	—
(2) 受取手形及び売掛金	2,139,732	2,139,732	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	918,317	918,317	—
(4) 敷金	656,096	657,188	1,092
資産計	11,183,312	11,184,405	1,092
(1) 買掛金	492,927	492,927	—
(2) 短期借入金	192,502	192,502	—
(3) 未払金	838,432	838,432	—
(4) 未払法人税等	552,213	552,213	—
負債計	2,076,076	2,076,076	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4) 敷金

敷金の時価については、無リスクの利子率で割り引いた金額によっております。

負 債

(1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金、(4) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
非上場株式	13,530	8,200

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。



3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	6,334,400	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,061,682	—	—	—
合計	8,396,083	—	—	—

当連結会計年度（2020年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
預金	7,452,143	—	—	—
受取手形及び売掛金	2,139,732	—	—	—
合計	9,591,876	—	—	—

4. 借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度（2019年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	189,902	—	—	—	—	—
合計	189,902	—	—	—	—	—

当連結会計年度（2020年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	192,502	—	—	—	—	—
合計	192,502	—	—	—	—	—

## (有価証券関係)

## 1. その他有価証券

前連結会計年度 (2019年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,140,606	187,560	953,046
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,140,606	187,560	953,046
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	—	—	—
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		1,140,606	187,560	953,046

(注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額13,530千円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度 (2020年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	905,627	130,579	775,048
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	905,627	130,579	775,048
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	12,689	13,740	△1,050
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	—	—	—
	② 社債	—	—	—
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	12,689	13,740	△1,050
合計		918,317	144,320	773,997

(注) 非上場株式 (連結貸借対照表計上額8,200千円) については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

## 2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	—	—	—

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額 （千円）	売却損の合計額 （千円）
(1) 株式	112,265	63,338	—
(2) 債券			
① 国債・地方債等	—	—	—
② 社債	—	—	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	112,265	63,338	—

## 3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

（退職給付関係）

### 1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の国内連結子会社は確定拠出年金制度を採用しております。

### 2. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）105,879千円、当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）118,207千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	150,155千円	179,833千円
未払社会保険料	24,335	26,403
未払事業税	50,204	44,742
返金引当金	5,565	6,299
減価償却費超過額	25,880	24,625
投資有価証券評価損	2,422	305
税務上の繰越欠損金	18,922	61,737
株式報酬費用	9,156	21,364
資産除去債務	27,592	30,542
その他	33,585	35,353
繰延税金資産小計	347,820	431,209
評価性引当額	△27,948	△72,211
繰延税金資産合計	319,872	358,997
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△291,440	△236,690
資産除去債務	△20,859	△23,059
その他	△9,906	△6,390
繰延税金負債合計	△322,206	△266,139
繰延税金資産(負債)の純額	△2,334	92,858

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社クロノス

事業の内容 開発事業：AI（人工知能）システム開発、Web・モバイルアプリケーション開発

教育事業：AI（人工知能）関連研修、IT教育研修、書籍執筆

(2) 企業結合を行った主な理由

当社の人材ビジネス分野において培ったノウハウと、株式会社クロノスが持つIT・AI分野のテクノロジーとを連携させ、人材採用・労務管理等のシステム開発やIT・AIエンジニア教育事業の拡充を強化・加速させることにより、顧客企業の人手不足の解消やIT化推進を支援していくことで、一層の企業価値向上と社会貢献を目指すことを目的としております。

(3) 企業結合日

2019年10月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

取得前に所有していた議決権比率 9.21%

企業結合日に追加取得した議決権比率 90.79%

取得後の議決権比率 100.0%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として、同社の株式を取得したためであります。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2019年10月1日から2020年3月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合前に保有していた被取得企業の企業結合日における時価 19,355千円

追加取得に伴い支出した現金及び預金 190,729千円

---

取得原価 210,084千円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 14,025千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

27,250千円

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 364,412千円

固定資産 46,210

---

資産合計 410,623

流動負債 80,459

固定負債 147,329

---

負債合計 227,789

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

事務所、保育施設等の不動産賃貸借契約及び定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該契約の期間及び建物の耐用年数（主に50年）と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回り（0.344%～2.266%）を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
期首残高	55,310千円	87,510千円
連結範囲の変更に伴う増加額	—	4,853
有形固定資産の取得に伴う増加額	31,457	6,291
資産除去債務の履行による減少額	—	△1,766
時の経過による調整額	742	1,122
期末残高	87,510	98,011

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、人材紹介・人材派遣、求人広告に関するサービスの提供、地域情報誌の出版等、複数の業種にわたる事業を営んでおります。当社及び当社の連結子会社（以下、事業運営会社）が各々独立した経営単位として、主体的に各事業ごとの包括的な事業戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社グループは、当社の事業運営組織及び事業運営会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「人材サービス事業」、「リクルーティング事業」、「情報出版事業」の3つを報告セグメントとし、報告セグメントに含まれない事業を「その他」の区分としております。

「人材サービス事業」は、人材紹介、人材派遣、紹介予定派遣、業務請負、保育所運営を主なサービスとして行っております。「リクルーティング事業」は、求人広告の広告代理、採用支援ツール提供、教育研修、人事業務請負を主なサービスとして行っております。「情報出版事業」は、地域情報誌の出版、Webプロモーション支援、ポスティング、コンシェルジュ（対面相談サービス）を主なサービスとして行っております。「その他」としては、「IT・ネット関連事業」において、「日本の人事部」サイトの運営、「日本の人事部」関連イベント等の企画・運営、Webプロモーション支援、Web・モバイルアプリ開発、ITエンジニア育成・研修を主に行っており、また「海外事業」では、米国・中国・メキシコ・英国・ベトナム・タイにおいて人材紹介、人材派遣、人事労務コンサルティング等を行っており、日本ではこれら海外子会社の営業支援等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	人材サー ビス	リクルー ティング	情報出版	計				
売上高								
外部顧客への売上高	11,499,956	3,960,734	1,980,252	17,440,943	1,732,198	19,173,142	—	19,173,142
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,004	8,019	12,000	21,023	26,774	47,798	△47,798	—
計	11,500,960	3,968,754	1,992,253	17,461,967	1,758,972	19,220,940	△47,798	19,173,142
セグメント利益	1,984,025	1,003,386	178,430	3,165,843	219,751	3,385,594	△804,147	2,581,447
セグメント資産	5,758,972	2,292,323	1,146,062	9,197,359	1,300,618	10,497,977	2,094,322	12,592,299
その他の項目								
減価償却費	93,802	4,330	27,028	125,160	10,694	135,855	33,653	169,508
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	379,794	4,310	11,153	395,258	6,261	401,519	53,881	455,401

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ネット関連事業、海外事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△804,147千円には、セグメント間取引消去143,936千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△948,084千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額2,094,322千円には、セグメント間取引消去△342,684千円、各報告セグメントに配分していない全社資産2,437,006千円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額33,653千円は報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産の減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額53,881千円は各報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	人材サー ビス	リクルー ティング	情報出版	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,217,957	3,734,389	2,093,330	19,045,678	1,990,036	21,035,714	—	21,035,714
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	10,340	11,602	11,926	33,868	22,040	55,908	△55,908	—
計	13,228,298	3,745,991	2,105,256	19,079,546	2,012,076	21,091,622	△55,908	21,035,714
セグメント利益	2,487,474	901,728	196,954	3,586,157	179,137	3,765,295	△834,702	2,930,592
セグメント資産	6,579,327	2,143,406	1,156,063	9,878,797	1,867,489	11,746,286	1,812,222	13,558,509
その他の項目								
減価償却費	111,337	4,392	20,851	136,581	10,590	147,171	31,953	179,124
減損損失	—	—	—	—	60,114	60,114	—	60,114
有形固定資産及 び無形固定資産 の増加額	420,523	13,602	1,290	435,416	10,754	446,170	14,279	460,450

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、IT・ネット関連事業、海外事業を含んでおります。

2. 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額△834,702千円には、セグメント間取引消去174,090千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,008,793千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の総務・経理部門等の管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額1,812,222千円には、セグメント間取引消去△294,312千円、各報告セグメントに配分していない全社資産2,106,534千円が含まれております。全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない当社での余資運用資金（現金及び預金）、長期投資資金（投資有価証券）及び管理部門に係る資産等であります。

(3) 減価償却費の調整額31,953千円は報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産の減価償却費であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額14,279千円は各報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産等であります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 「その他（海外事業）」において、のれんの減損損失60,114千円を計上しております。



【関連情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	人材サービス	リクルーティング	情報出版	その他	合計
外部顧客への売上高	11,499,956	3,960,734	1,980,252	1,732,198	19,173,142

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社リクルート	2,473,544	リクルーティング事業

（注）2018年4月1日付で株式会社リクルートホールディングスはメディア&ソリューション事業に関する権利義務等を株式会社リクルート（株式会社リクルートアドミニストレーションから商号変更）に承継させる吸収分割を行っております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	人材サービス	リクルーティング	情報出版	その他	合計
外部顧客への売上高	13,217,957	3,734,389	2,093,330	1,990,036	21,035,714

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社リクルート	2,553,219	リクルーティング事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	人材サービス	リクルー ティング	情報出版	その他（注）	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	60,114	—	60,114

（注）「その他」の金額は、海外事業に係る金額であります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	人材サービス	リクルー ティング	情報出版	その他（注）	全社・消去	合計
当期償却額	—	—	—	14,614	—	14,614
当期末残高	—	—	—	118,858	—	118,858

（注）「その他」の金額は、海外事業に係る金額であります。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	人材サービス	リクルー ティング	情報出版	その他（注）	全社・消去	合計
当期償却額	—	—	—	12,929	—	12,929
当期末残高	—	—	—	74,846	—	74,846

（注）「その他」の金額は、IT・ネット関連事業及び海外事業に係る金額であります。また、「その他」の海外事業において減損損失60,114千円を計上しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（%）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
役員	川口 一郎	—	—	当社代表取締役社長	（被所有） 直接 0.23	—	自己株式の処分（注）	42,775	—	—
役員	中井 義貴	—	—	当社取締役執行役員	（被所有） 直接 0.80	—	自己株式の処分（注）	17,110	—	—
役員	横田 勇夫	—	—	当社取締役執行役員	（被所有） 直接 0.41	—	自己株式の処分（注）	25,665	—	—
役員	平田 安彦	—	—	当社取締役執行役員	（被所有） 直接 1.23	—	自己株式の処分（注）	17,110	—	—
役員	林 城	—	—	当社取締役執行役員	（被所有） 直接 1.52	—	自己株式の処分（注）	17,110	—	—

（注）譲渡制限付株式報酬制度に伴う、自己株式の割当によるものであります。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	443円19銭	502円19銭
1株当たり当期純利益	104円40銭	110円05銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,966,284	2,074,137
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	1,966,284	2,074,137
普通株式の期中平均株式数 (千株)	18,834	18,847

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	189,902	192,502	0.7	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	6,000	0.8	—
1年以内に返済予定のリース債務	3,491	2,825	3.0	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	—	4,500	0.8	2021年～2022年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く。)	7,629	4,803	3.6	2021年～2024年
その他有利子負債	—	—	—	—
計	201,023	210,631	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高及びリース債務残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	4,500	—	—	—	—
リース債務	1,853	1,920	718	311	—

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	6,163,990	10,864,044	15,620,690	21,035,714
税金等調整前四半期(当期)純利益(千円)	1,932,023	2,324,880	2,613,090	3,014,237
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(千円)	1,318,445	1,552,724	1,724,095	2,074,137
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	69.92	82.34	91.46	110.05

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益(円)	69.92	12.42	9.10	18.58

## 2 【財務諸表等】

### (1) 【財務諸表】

#### ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,719,753	5,155,101
受取手形	437	540
売掛金	※2 1,434,579	※2 1,440,148
前渡金	1,007	5,825
前払費用	217,602	188,562
未収入金	※2 162,647	※2 173,039
短期貸付金	※2 300,000	※2 334,068
その他	※2 18,514	※2 27,013
貸倒引当金	△1,840	△1,920
流動資産合計	6,852,701	7,322,378
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 249,487	※1 259,532
構築物	271	203
工具、器具及び備品	60,452	60,546
土地	※1 100,080	※1 100,080
リース資産	7,144	4,884
有形固定資産合計	417,435	425,248
無形固定資産		
ソフトウェア	123,645	340,075
ソフトウェア仮勘定	79,270	72,083
その他	3,942	3,942
無形固定資産合計	206,858	416,101
投資その他の資産		
投資有価証券	1,154,136	926,517
関係会社株式	1,138,369	1,242,165
出資金	80	80
関係会社出資金	—	33,765
繰延税金資産	—	83,310
敷金	553,537	552,714
その他	※2 105,176	※2 75,629
貸倒引当金	△3,640	△3,120
投資その他の資産合計	2,947,659	2,911,063
固定資産合計	3,571,954	3,752,412
資産合計	10,424,655	11,074,791

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	※2 484,467	※2 420,549
短期借入金	※1, ※2 174,000	※1 74,000
リース債務	2,225	2,288
前受金	10,629	17,129
未払金	※2 665,373	※2 571,714
未払法人税等	427,804	438,095
未払消費税等	199,767	190,634
預り金	30,318	35,319
未払費用	※2 347,744	383,872
賞与引当金	363,568	429,114
役員賞与引当金	60,000	40,000
返金引当金	18,200	20,600
資産除去債務	679	—
その他	933	1,715
流動負債合計	2,785,711	2,625,032
固定負債		
リース債務	5,034	2,746
繰延税金負債	56,270	—
資産除去債務	53,557	57,943
固定負債合計	114,862	60,690
負債合計	2,900,573	2,685,723
純資産の部		
株主資本		
資本金	351,317	351,317
資本剰余金		
資本準備金	271,628	271,628
その他資本剰余金	154,516	154,516
資本剰余金合計	426,144	426,144
利益剰余金		
利益準備金	16,643	16,643
その他利益剰余金		
別途積立金	4,150,000	4,950,000
繰越利益剰余金	1,933,337	2,122,622
利益剰余金合計	6,099,980	7,089,265
自己株式	△14,965	△14,965
株主資本合計	6,862,476	7,851,761
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	661,606	537,307
評価・換算差額等合計	661,606	537,307
純資産合計	7,524,082	8,389,068
負債純資産合計	10,424,655	11,074,791

## ②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	※ <sub>2</sub> 12,599,732	※ <sub>2</sub> 13,760,196
売上原価	※ <sub>2</sub> 3,782,785	※ <sub>2</sub> 3,800,836
売上総利益	8,816,947	9,959,359
販売費及び一般管理費	※ <sub>1</sub> , ※ <sub>2</sub> 6,861,383	※ <sub>1</sub> , ※ <sub>2</sub> 7,713,031
営業利益	1,955,564	2,246,328
営業外収益		
受取利息	※ <sub>2</sub> 3,640	※ <sub>2</sub> 4,146
受取配当金	※ <sub>2</sub> 130,958	※ <sub>2</sub> 216,680
受取販売協力金	9,000	46,000
経営指導料	※ <sub>2</sub> 147,600	※ <sub>2</sub> 157,200
その他	※ <sub>2</sub> 8,302	※ <sub>2</sub> 16,766
営業外収益合計	299,501	440,793
営業外費用		
支払利息	※ <sub>2</sub> 1,391	※ <sub>2</sub> 1,342
為替差損	437	4,104
支払手数料	—	730
営業外費用合計	1,828	6,177
経常利益	2,253,237	2,680,944
特別利益		
投資有価証券売却益	—	63,338
特別利益合計	—	63,338
特別損失		
固定資産除却損	※ <sub>3</sub> 2,539	※ <sub>3</sub> 8,372
関係会社株式評価損	—	230,827
特別損失合計	2,539	239,200
税引前当期純利益	2,250,698	2,505,082
法人税、住民税及び事業税	670,050	752,044
法人税等調整額	△53,600	△84,830
法人税等合計	616,450	667,214
当期純利益	1,634,247	1,837,867

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		利益剰余金 合計
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金	利益剰余金 合計	
					別途積立金	繰越利益剰 余金		
当期首残高	351,317	271,628	39,089	310,717	16,643	3,350,000	1,795,554	5,162,197
当期変動額								
剰余金の配当							△696,464	△696,464
別途積立金の積立						800,000	△800,000	—
当期純利益							1,634,247	1,634,247
自己株式の取得								
自己株式の処分			115,427	115,427				
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）								
当期変動額合計	—	—	115,427	115,427	—	800,000	137,782	937,782
当期末残高	351,317	271,628	154,516	426,144	16,643	4,150,000	1,933,337	6,099,980

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評 価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	△19,223	5,805,009	586,784	586,784	6,391,793
当期変動額					
剰余金の配当		△696,464			△696,464
別途積立金の積立		—			—
当期純利益		1,634,247			1,634,247
自己株式の取得	△85	△85			△85
自己株式の処分	4,342	119,770			119,770
株主資本以外の項目の当期変動額 （純額）			74,821	74,821	74,821
当期変動額合計	4,257	1,057,467	74,821	74,821	1,132,288
当期末残高	△14,965	6,862,476	661,606	661,606	7,524,082



当事業年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	351,317	271,628	154,516	426,144	16,643	4,150,000	1,933,337	6,099,980
当期変動額								
剰余金の配当							△848,583	△848,583
別途積立金の積立						800,000	△800,000	—
当期純利益							1,837,867	1,837,867
自己株式の取得								
自己株式の処分								
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	—	—	—	—	—	800,000	189,284	989,284
当期末残高	351,317	271,628	154,516	426,144	16,643	4,950,000	2,122,622	7,089,265

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	△14,965	6,862,476	661,606	661,606	7,524,082
当期変動額					
剰余金の配当		△848,583			△848,583
別途積立金の積立		—			—
当期純利益		1,837,867			1,837,867
自己株式の取得		—			—
自己株式の処分		—			—
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			△124,299	△124,299	△124,299
当期変動額合計	—	989,284	△124,299	△124,299	864,985
当期末残高	△14,965	7,851,761	537,307	537,307	8,389,068

## 【注記事項】

(重要な会計方針)

### 1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式及び関係会社出資金

移動平均法による原価法

#### (2) その他有価証券

##### ①時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

##### ②時価のないもの

移動平均法による原価法

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8年～39年

器具及び備品 5年～15年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（2年～5年）に基づいております。

#### (3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### (2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (3) 役員賞与引当金

役員の賞与支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

#### (4) 返金引当金

紹介手数料に対する将来の返金に備えるため、売上額に返金実績率を乗じた金額を計上しております。

### 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や企業活動に広範な影響を与える事象であります。今後の広がり方や終息時期等を予測することは困難であります。当社では、当事業年度末時点で入手可能な情報をもとに、今後2021年3月期の一定期間に渡り、当該影響が継続するとの仮定のもと、固定資産の減損や繰延税金資産の回収可能性等に関する会計上の見積りを行っております。

(貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産及び担保に係る債務  
担保に供している資産

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
建物	18,044千円	17,016千円
土地	96,380	96,380
計	114,424	113,396

担保に係る債務

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期借入金	66,000千円	66,000千円
計	66,000	66,000

上記、建物・土地に設定した担保は根  
抵当権であり、その極度額は470,000  
千円であります。

上記、建物・土地に設定した担保は根  
抵当権であり、その極度額は470,000  
千円であります。

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	396,220千円	433,199千円
長期金銭債権	26,214千円	28,998千円
短期金銭債務	104,717千円	14,517千円

3 偶発債務

債務保証

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
(株)カラフルカンパニー	115,902千円	118,502千円

(損益計算書関係)

※1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度68%、当事業年度71%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度32%、当事業年度29%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
給料及び手当	3,319,993千円	3,799,428千円
賞与引当金繰入額	355,088	423,160
役員賞与引当金繰入額	60,000	40,000
退職給付費用	69,707	80,005
貸倒引当金繰入額	△5,032	△74
減価償却費	113,340	118,979

※2 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	15,870千円	12,591千円
仕入高	54,739	41,099
販売費及び一般管理費	6,459	30,890
営業取引以外の取引高		
受取配当金	118,600	204,289
受取指導料等	153,717	166,749

※3 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物	793千円	113千円
工具、器具及び備品	0	64
ソフトウェア	1,746	8,194
計	2,539	8,372

(有価証券関係)

前事業年度(2019年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額は1,138,369千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(2020年3月31日)

子会社株式(貸借対照表計上額は1,242,165千円)及び関係会社出資金(貸借対照表計上額は33,765千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	111,179千円	131,223千円
未払社会保険料	18,808	19,475
未払事業税	31,038	31,864
返金引当金	5,565	6,299
貸倒引当金	1,675	1,541
減価償却費超過額	23,701	21,810
投資有価証券評価損	2,422	305
関係会社株式評価損	6,623	46,563
株式報酬費用	9,156	21,364
資産除去債務	16,775	17,719
その他	22,824	33,222
繰延税金資産合計	249,770	331,390
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△291,440	△236,690
資産除去債務	△10,899	△11,390
その他	△3,700	—
繰延税金負債合計	△306,040	△248,080
繰延税金資産（負債）の純額	△56,270	83,310

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
法定実効税率 (調整)	30.6%	30.6%
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.8	2.8
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△1.5	△2.7
住民税均等割	0.1	0.1
税額控除	△3.6	△4.0
その他	△0.0	△0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.4	26.6

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## ④【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	249,487	38,192	113	28,033	259,532	244,455
	構築物	271	—	—	67	203	2,898
	工具、器具及び備品	60,452	21,320	64	21,161	60,546	93,493
	土地	100,080	—	—	—	100,080	—
	リース資産	7,144	—	—	2,259	4,884	6,415
	計	417,435	59,513	178	51,523	425,248	347,263
無形固定資産	ソフトウェア	123,645	291,273	8,194	66,649	340,075	—
	ソフトウェア仮勘定	79,270	239,313	246,500	—	72,083	—
	その他	3,942	—	—	—	3,942	—
	計	206,858	530,587	254,695	66,649	416,101	—

(注) 当期増加額のうち主なものは、社内システムの構築による増加226,258千円(ソフトウェア)であります。

## 【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	5,480	—	440	5,040
賞与引当金	363,568	429,114	363,568	429,114
役員賞与引当金	60,000	40,000	60,000	40,000
返金引当金	18,200	20,600	18,200	20,600

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで	
定時株主総会	6月中	
基準日	3月31日	
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日	
1単元の株式数	100株	
単元未満株式の買取り・買増し 取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部	
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社	
取次所	_____	
買取・買増手数料	無料	
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="https://919.jp/">https://919.jp/</a>	
株主に対する特典	毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された当社株式100株（1単元）以上保有の株主様に対し、以下の通り保有株式数・保有期間に応じて優待品を送付いたします。	
	保有株式数	継続保有期間3年未満の株主様 継続保有期間3年以上の株主様（※1、※2）
100株以上500株未満	クオカード500円分	クオカード1,000円分
500株以上1,000株未満	クオカード1,000円分	クオカード2,000円分
1,000株以上5,000株未満	クオカード2,000円分	クオカード4,000円分、または4,000円相当の北海道特産品（※3）
5,000株以上	・クオカード2,000円分 ・当社が選定する日本各地の工芸品または特産品	・クオカード4,000円分、または4,000円相当の北海道特産品（※3） ・当社が選定する日本各地の工芸品または特産品
<p>※1. 継続保有期間3年以上の株主様（長期保有株主様）とは、毎年3月31日（判定日）から遡って、同一株主番号で6回以上連続して3月31日及び9月30日の株主名簿に記載または記録されている株主様といたします。</p> <p>※2. 継続保有期間3年以上の株主様（長期保有株主様）につきましては、判定日以前の保有株式数にかかわらず、判定日の株主名簿に記載または記録されている保有株式数に応じて、長期保有優遇制度を適用いたします。</p> <p>※3. 4,000円相当の北海道特産品については、当社が選定いたしました5品目の北海道特産品の中から株主様ご希望される1品をお選びいただき、お申込みいただけます。北海道特産品をご希望されない株主様は、北海道特産品に代えてクオカード4,000円分をお申込みいただけます。北海道特産品カタログおよびお申込書については、6月下旬の発送を予定しております。なお、お申込期限（7月20日）までにお申込みがない場合は、クオカード4,000円分を送付いたします。</p> <p>※4. ※3以外の株主優待品については、6月下旬の発送を予定しております。</p>		

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利、株主が有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売渡すことを請求する権利以外の権利を有していません。



## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1)有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第39期）（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）2019年6月20日近畿財務局長に提出。

#### (2)内部統制報告書及びその添付書類

2019年6月20日近畿財務局長に提出。

#### (3)四半期報告書及び確認書

（第40期第1四半期）（自 2019年4月1日 至 2019年6月30日）2019年8月9日近畿財務局長に提出。

（第40期第2四半期）（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）2019年11月13日近畿財務局長に提出。

（第40期第3四半期）（自 2019年10月1日 至 2019年12月31日）2020年2月13日近畿財務局長に提出。

#### (4)臨時報告書

2019年7月11日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号に基づく臨時報告書であります。

2019年12月11日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号に基づく臨時報告書であります。

2020年2月18日近畿財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号に基づく臨時報告書であります。

#### (5)臨時報告書の訂正報告書

2019年12月17日近畿財務局長に提出。

2019年12月11日提出の臨時報告書に係る訂正報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年 6月 26日

株式会社クイック

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 廣田 壽俊 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 谷間 薫 印

## <財務諸表監査>

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社クイックの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クイック及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

## <内部統制監査>

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社クイックの2020年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社クイックが2020年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

### 内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

# 独立監査人の監査報告書

2020年6月26日

株式会社クイック

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

大阪事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 廣田 壽俊 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 谷間 薫 印

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社クイックの2019年4月1日から2020年3月31日までの第40期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社クイックの2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。